撫養鹽務局

本局之部

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

撫養鹽務局本局之部

第一章　鹽田ノ位置、方位及附近ノ地勢、地形

齋田濱ノ位置及地勢ハ板野郡ノ東北部ニアリテ南ハ立岩ノ南端北緯三十四度十分七秒ニ起リ北ハ同三十四度十三分四十秒ナル小島田ニ終リ東ハ立岩ノ東端東經百三十四度三十七分三十七秒ニ始マリ西ハ百三十四度三十五分ナル明ノ神ニ了リ北ハ大毛、高島、島田ノ島嶼ト四國本島ト狹隘細長ナル海峽ヲ隔テ、殆ンド接セントス此海峽ハ淡路海ニ突出スル大磯崎ノ北西岸ニ起リ北西ニ奔リ大桑島ノ正北岸三ツ石ニ至リ北ニ向フノ一水道ニヨリテ內海ニ通シ尙北西ニ進ミ明神（アキノカミ）ニ於テ更ニ二小路トナリ一ハ東北ニ折レテ內海ニ通スル堀越ノ瀨戶トナリ一ハ正北ニ向ヒ北泊浦ト島田島トノ間ニテ撫養ノ瀨戶トナリ共ニ播磨海ニ通セリ而シテ此細長ナル海峽ノ兩岸ニ沿ヒテ各鹽田アリ島中大毛、大谷、八王寺等相峙テ小島田、三ツ石、高島ノ各產鹽地アリ海峽ヲ隔テ、明神、黑崎、大桑島、北濱、辨財天等ノ各產鹽地ト相對ス南ハ田園遠ク開ケテ一望際涯ナク吉野川支流ノ一ナル廣戶川口ト南北ニ流ル、撫養川ヲ以テ海峽ノ海水ト相通ス小桑島村、齋田南濱、北濱、立岩ノ各鹽田之レニ沿フ西ハ雨ケ壺、大林、金光等ノ山脈連亘シ東ハ丘陵ノ橫タハルモノアレトモ概ネ高カラス

第二章　鹽業ノ沿革

本齋田鹽田ノ起源

今ヨリ三百十六年前正親町天皇ノ御宇天正十三年六月羽柴秀吉諸將ヲシテ長曾我部元親ヲ攻メシメ之レヲ降ス此役ニ蜂須賀家政戰功アリ秀吉之レヲ賞シテ阿波ニ封ス家政即チ德島ニ治ス家政封ヲ受ケ阿波ニ渡ルヤ時恰モ戰國亂離ノ後ヲ受ケ產業衰退シ田畑ハ荒廢シ盜賊橫行シ人民ハ困弊シ無職業ノモノ多カリキサレハ家政ハ專ラ慈愛ヲ以テ領民ヲ撫恤シ物產ヲ興シ庶民ヲシテ其堵ニ安ンセシメント欲シ家臣ヲ督シ經營慘憺諸種ノ產業ヲ企劃勸誘スルヤ國民悅服恰モ市ニ歸スルカ如シサテ家政ノ舊地播州ハ當時製鹽ノ業既ニ發達セシヲ以テ公之レニ倣ヒテ製鹽ノ業ヲ創メント欲シ潮水ノ干滿強クシテ鹽田ニ適スル地ヲ得ントセシカ撫養ノ入江ハ淺瀨ニシテ砂地ナルニヨリ乃チ家臣撫養ノ城主益田大膳ニ命シ播州長濱ノ鹽田ヲ築キ立テ、老練ノ聞エアル同國荒井ノ人馬居七郎兵衛並ニ大谷五郎右衞門ヲ招キ瀨戶ノ干潟ヲ踏查シ幸ヒニ鹽田ニ適スルモノアラハ兩人ニ相應ノ家督ヲ與フヘシトノ命アリ兩氏命ヲ奉シテ瀨戶內ノ干潟ヲ踏查セシカ干潟ハ能ク鹽田ニ適シ蘆葦叢生ノ分ハ田地ニ適スヘキヲ知リ其狀ヲ大膳ニ復命セシカハ藩主ヨリ直チニ其業ニ從フヘキ事ヲ命セラル

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

夷山ノ鹽田創始　大谷、馬居ノ二氏ハ鹽田開築ノ命ヲ奉シテヨリ後今ヲ去ル三百二年前即チ慶長四年三月今ノ撫養町大字大桑島村夷山ノ下ニ創メテ少許ノ鹽田ヲ開築シ（現今ハ加納市右衛門十三代ノ裔加納嘉久郎所有ニカ、ル）始メテ鹽ヲ燒キ之ヲ大膳ニ呈シ且ツ産鹽ノ成績好良ナルヲ以テ廣ク鹽民ヲ招致センコトヲ乞ヒタリ爾來相續テ播磨、淡路兩國ヨリ鹽民ヲ招集シテ開築ニ從事シ鹽田漸ク增加セリ斯ク鹽田創始ノ効ヲ奏セシニヨリ兩氏ハ一旦播州ニ歸リ何レモ荒井ノ家督ヲ嫡孫ニ與ヘテ妻子ヲ携ヘ再ヒ撫養ニ來レリ

蜂須賀至鎭ノ鹽業奬勵　慶長九年家政致仕シテ長子至鎭封ヲ襲フ至鎭英武ニシテ大略アリ父ノ志ヲ繼キ殖產興業ニ心ヲ潛メシカ大ニ鹽田開拓ノ擧ヲ贊シ慶長十年十二月公親ラ家臣ヲ從ヘ巡檢シテ撫養ニ至リ齋田山ニ齋田四組新開田地幷ニ鹽田開築ノ成績好良ナルヲ望見シ喜ニ堪ヘス大谷五郎右衛門、馬居七郎兵衛ヲ召シテ謁ヲ賜ヒ瀨戶內新開田畠斗代ヲ定メ且ツ子孫ニ至ル迄藏入タルヘキコト並ニ諸役免許タルヘキ旨ヲ諭シ公親ラ筆ヲ執リテ小板ニ三ケ條ヲ書シ自今大ニ鹽民ヲ招集シテ鹽業ヲ擴張スヘキ樣懇篤奬勵セリ

標札（中央長サ一尺兩端ノ長サ九寸六分幅一尺二寸八分厚サ四分ノ木板）

定

一板野郡齋田村新開田六斗代畠三斗代　但此請可

一上濱六町四反五畝二十步　鍬島分

此銀子七百三十五匁六分五毛但シ一反步ニ付十一匁三分九厘三毛宛

一下濱六町三畝二十步　同所

此銀子五百二十九匁五厘二毛但シ一反ニ付八匁七分六厘四毛宛

右二口銀合一貫二百六十四匁六分五厘七毛但シたま上下ノ違三わり也

右之外　政所

一參段　上　市右衛門給

同　政所

撫養十二ケ村鹽田開築ノ順序　馬居、大谷ノ兩氏ハ鹽田開創ノ効ヲ奏セシヨリ一意專心斯業ニ從事シ播磨並ニ淡路ヨリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

多ク鹽民ヲ招集セシカハ鹽田漸ク增加ス之ヲ齋田四組ト云フ齋田四組トハ大齋田、中齋田、大黑崎、小黑崎ニシテ齋田濱十二ケ村ハ右ヨリ始マルト云フ夫レヨリ慶長十一二年ノ頃迄ハ撫養齋田七島ヲ開築セリ又其頃ヨリ村々ニ庄屋ヲ置キテ馬居七郎兵衞、大谷五郎右衞門兩人組頭庄屋役ニ命セラレ慶長十二年三月十九日ニハ益田大膳ヨリ各庄屋等ヘ濱方證文ヲ授ケタリキ

證文寫（撫養町大字大岙島加納嘉久郎氏秘藏）

鹽濱銀子割符之事

一貳段　上　　助太夫給

當開分者右之外也

以　上

慶長十二年三月十九日　　大膳（華押）

所謂七島トハ齋田、鍬島、南濱、北濱、竹島、三ツ石、安藝神是レナリ此時ニ當リテ篠原孫左衞門ト云フ人淡路委文村ヨリ來リ同志ヲ督シ拮据經營竹島ノ鹽田ヲ開築セリ爾後慶長十三年ニ至リ立岩、辨財天、小島田ノ鹽田開築ヲ竣リテ十ケ村トナレリ以上立岩並ニ辨財天ハ家臣賀島主水、小島田村ハ山田豐前ヨリ證文ヲ授ケラレタリキ後正保元年十二月代官梯彌治太夫郡奉行村尾藤右衞門勤務ノ時齋田ヲ分チテ齋田、黑崎ノ二村トシ鍬島ヲ分チテ大桑島、小桑島ノ二村トナシ始メテ十二ケ村トナレリ齋田四組ハ元鹽屋創始ノ所ナルヲ以テ爾後各村ノ製鹽皆齋田組ノ名稱ヲ稱ヘテ今ニ到レリ

益田飛驒守正長ヨリ鹽屋中ノ掟ヲ定メラレシコト

元和八年頃ニ至リテハ鹽業漸ク盛ニナリシカハ益田飛驒守正長ヨリ制札ヲ與ヘラレ以テ鹽屋一統ノ掟ヲ定メラレキ

定

一才田鹽屋中出入於有之は其村に政所年寄隨分下にて相濟可申候若し不事濟候は丶三郎兵衞江可申聞候其上にても不事濟候はは兩方人質を取置我等に可申候何事によらす或内緣或外人を賴候て致取沙汰儀堅無用事

一何方に成とも濱に可成所見立候者御爲にて候條早々我等に可申聞候以別人つたはる儀無用事

一新濱誰にても境目をさし鍬目を仕取置候共其者捨置候而遲々仕候は丶誰によらず當分普請可仕と申者に遣可申事

一鹽屋中少しにても新濱を仕隱置後日に聞付候は丶其濱は公儀へ被召上本人之儀者不及申政所をも曲事に可申付事

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一他國の者相抱候共能念を入究を仕請人を立抱可申候むさと抱候て出入仕間敷候事
一於才田中往來人其外いか樣の者にても不審成者來候はゝ一夜の宿をかし候共能穿鑿をいたすは尤に候曲事人の宿を仕者又は取持候者たといたばかられの上にても如御法度不可遁其罪候然上者かねたたきくすしなどのやうなる者をもむさと仕たる者は所々足をもためさせの儀無用よく〳〵念を入穿鑿仕其上にて所にも置可申事
一其所々に有付有之者隱居の者によらす他領の義は不及申齊田の內にても我等に不申聞住所を立退他所へ罷越義堅有之間敷候我承屆上にて隨て其分可申付事
一於所或不屆族申者或は所のために不可然者有之者せんさくいたし我等に可申聞事
一村役之入目誌百姓中割符仕割小百姓に毛頭打增仕間敷萬事政所覺悟として恣に仕義曲事に候條頭百姓と致相談念入可申事
一爲政所覺悟百姓共に聊非分申懸間敷候萬事に付小百姓手前をいたわり候て堪忍罷成樣に仕義專一御爲にて候條常に可得其意事
一走り人家屋敷並に濱田地之外下としてむさと仕義有之間敷候我等に可申聞候其上にて有樣に可申付事
一於齊田中勸進無勸進能其外左樣の類並に所々ついへに罷成遊山かましき儀堅令停止事
一政所百姓によらす公儀の御用其外にも三郎兵衞申付通無承引理不盡に申者候はゝ當座に搦置候歟又は牢舍申付其旨を我等に可申聞候事

右條々無違背樣に常に相守一ケ月一度宛村切に政所年寄百姓共寄合候て條數の趣可遂穿鑿者也

元和八年四月十六日　　益田飛彈守正長（華押）

鹽稅ノ變遷　寬永十年藩主ヨリ手代ヲ定メ鹽業ニ從事スル人民ニハ諸般ノ徵役ヲ免シ同十二年三月ニ至リ各地ニ役所ヲ置キ村々ニ鹽濱ノ證文ヲ下附シ上濱ハ一反ニ付銀十三匁三分九厘三毛下濱ハ一反ニ付八匁七分六厘四毛ノ租稅ヲ徵收シ夕ル外產鹽一俵ニ付一分五厘ノ稅ヲ課セリト云フ爾後寬政年間ニ至リ更ニ二分二厘五毛ニ增稅セシカハ同六年ニ至リ鹽稅ノ苛重ナルト鹽價ノ低落セルトニ基因シテ鹽業者ノ困難日ニ加リ終ニ藩府ヨリ救護ヲナシタリト云フ又安永七年ノ調查ニヨレハ當時十二ケ村ノ鹽田沼井數三萬三千九百七十六臺（沼井一臺ニ屬スル鹽田面積ヲ三十坪ト假定シ其面積即チ三百三十九町七反六畝ニ當ル）ニシテ鹽田ノ階級ヲ上中下各三等即チ九等ニ分チ是ヨリ產出スル食鹽二十九萬九千八百三十三石トス降テ明

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

治九年地租改正ノ結果ニヨレハ其反別三百七十九町九反一畝二十七歩ニシテ一等ヨリ十一等迄ノ階級アリ爾後益々其反別ヲ増加シ現今ハ三百九十九町四反ニ上リ一等ノ地價一反ニ對シ金七十三圓八十八錢二厘ニシテ以下毎等金五圓ノ遞減法ニ從ヒ現ニ一等地ハ金一圓八十四錢七厘ノ地租ヲ納ム

藩府ノ製鹽業者保護法　寛永二年ノ舊記ニ據ルニ當時十二ヶ村ノ鹽民困窮セルヲ以テ時ノ鹽方奉行多田彌六兵衛並ニ林崎會所ヘ救護ヲ乞ヒシニ其中四ヶ村ハ百枚ニ付百十匁宛十二月下旬ニ貸與セラレ翌三年一月ニ殘リ八ヶ村ヘモ前四ヶ村同樣ニ貸與セラレ何レモ始メ三年間ハ無利足後ハ六ヶ年賦トシテ月利八厘トナシタリキ以後屢々藩府ヨリ救護ヲ加ヘラレシカ寛永六年ニ至リ高島村手代伊丹藤左衛門勤務ノ時頻年鹽價低落シテ鹽民困窮セリ伊丹氏等之ヲ憂ヒ鹽民ニ懇諭シテ鹽一俵ニ付一厘宛ヲ徴シ當村ノ手代ニ預ケ置カハ數年ノ後三四百目宛トナリ年末等ニ於テ他ノ救護ヲ煩ハサスシテ可ナラント鹽民之ニ從フ藤左衛門又之ヲ時ノ代官佐和瀧三郎ニ報告ス佐和氏大ニ之ヲ嘉ミシ鹽方十二ヶ村ニ各一俵ニ付一厘宛ヲ收メシメ其金ハ林崎會所（鹽稅及其他撫養川交通ノ船舶ニ對シ一分銀ヲ取立テ藩府ヘ納ムルモノ）ニ預ケ置キ凶年ノ時又ハ不時ノ用途等ニ充ツヘキヲ命ス同八年五月ニ至リ十二ヶ村何レモ製鹽一俵ニ付一厘宛ヲ收メシムルノ制ヲ設ケテヨリ數年ノ後始メテ救護ニ充ツルヲ得テ後益々此法ヲ繼續改良シテ維新前ニ至レリト云フ今救護ノ種目ヲ擧クレハ左ノ如シ

一仕解法　四朱二毛ノ低利ニテ二十一ヶ年賦トス　一床上拜借　一竈屋鹽溜普請拜借等其他數種アリ

第三章　製鹽法

甲　鹹水採收

一　鹽田入濱式鹽田

一軒前鹽田反別ハ各戶一定セストハ雖トモ明治三十八年八月ノ調査ニヨレハ

村名 ＼ 名稱	立岩	南濱	大島	黒崎	高島	三ツ石
辨財天	齋田	小島			明神	
北濱		桑島			小島田	
鹽田一戶前平均坪數	六、〇〇〇	六、〇〇〇	四、六八九	四、八〇〇	五、二二九	四、五六九
同上數	二〇〇	二〇〇	一六〇	一六四	一六二	一六二
沼井數	二〇〇	二〇〇	一六〇	一六四	一六二	一六二

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

然レトモ本調査ハ撫養町大字大桑島濘岩一番鹽田一町七反四畝十二歩（一軒前）ノモノニシテ沼井臺數百六十五艘ヲ有スルモノナリ地盤ハ潮水ノ湧出盛ナルカ故俗ニ之レヲ湧キ濱ト稱ヘ從來ノ濱等級ニヨレハ二等鹽田ニシテ一反歩ノ地價五十三圓五十錢ナリ鹽田面積ノ內譯左ノ如シ

採鹹面積	四千三百二十五坪	溝渠	五百九十坪	石炭納屋	十坪
鹹水溜	八坪一分	倉庫	十六坪	釜屋	三十坪
其他敷地	二百六十二坪九分				

二　堤防ノ面積、高低及ヒ築造材料

堤敷面積　七百五十六坪　堤防高　二間半（堤敷ヨリ堤上迄）

仝　幅　五間乃至六間堤敷ニ於テ　一間乃至一間半堤防上ニ於テ　仝　長　二百間

堤防ノ外側即チ海ニ接スル方面ハ堤敷ヨリ一間半ヲ石垣トナシ內側即チ鹽田ニ面スル所ハ四尺迄ヲ石垣トナシ內部ニ砂利及粘土ヲ以テ破壞セサル樣堅牢トナシ夫レヨリ上部ハ海底ノ粘土又ハ山砂ヲ用井石材ハ主ニ御影石ナレトモ鳴門石ヲ用フル所モアリ

三　溝渠　各溝渠間ノ距離ハ一定セストト雖トモ臺一ト通リナレハ七間乃至八間二タ通リノ場合ニハ十四間乃至十五間ヲ普通トス溝幅四尺乃至一間深サ一尺八寸ニシテ大溝、小溝トニヨリ多少ノ相違アリ又溝緣ヲ石垣ニテ疊ミタルモノハ比較的其巾狹ケレトモ是等ノ設備ナキモノハ稍々廣シ

溝幅　四尺　深　一尺八寸　長　五百九十六間

四　撒砂（鹹砂）浸出裝置　普通鹽田三十坪ニ付臺（沼井）一艘ヲ設クル割合ナレトモ鹽田ノ形狀ニヨリ多少斟酌ヲ加ヘテ其配列ヲ定ム臺二艘ヲ並列スルモノヲ共臺ト稱ヘ一艘宛設クルヲ片臺ト云フ片臺ハ不便多キノミナラス面積ヲ要スルコト比較的多キモノナレハ不得止場合ヲ除クノ外凡テ共臺トナス

臺ノ構造ハ甚タ複雜ナルモノニシテ先ツ鹽田ニ縱五尺五寸巾五尺ノ區域內ヲ強ク壓迫シテ平面ヨリ三寸位低クナシ其一方ニハ徑二尺深サ二尺五寸ノ穴ヲ堀リ之ニ適合セル桶ヲ入レ其上部ハ粘土ヲ以テ塗リ堅メ鹹水ノ受壺トナス臺前記地盤ノ上ニ縱四尺五寸巾四尺ノ底ナキ木製ノ臺型ヲ置キ之ヲ元トシテ外部ヨリ粘土ヲ踏ミ固メ海水ヲ混シテ軟ラケ漸次高クナシツヽ壓迫シ凡ソ二尺ノ高サニ達シタル時臺型ヲ拔キ取リ踏鋤ニテ鹽梅能ク切リ取リ海水ヲ散布シテ塗リ固ム（之レニ用フ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ル粘土ハ鹽田地盤ヨリ堀リ出スコトアレトモ多クハ海底ニ沈澱シタル粘土ヲ採收シテ乾カシ置キ使用ニ供ス本齋ニテ最モ賞用セラルモノハ明神附近ノ鹽田ヨリ堀リ出シタル粘土又ハ同所ノ海底ニ沈澱シタル粘土ナリ）之レヲ一晝夜放置シテ翌日臺叩ニテ敲キ堅メ厚サ五寸高サ一尺八寸位トナス臺底ハ粘土ニテ踏ミ堅メ鹽田面ヨリ凡ソ二寸位高カラシム然レトモ受壺ニ近ツクニ從ヒ多少勾配ヲ付シ鹹水ノ流出ヲ容易ナラシム壺ニ接スル所ニハ徑五分位ノ孔ヲ穿チテ流出口トナス其臺ハ二個ノ臺型ヲ並置シテ作リタルモノニテ其築造法ハ前者ト異ナラス

臺內部ノ構造即チ浸出裝置ハ先ツ徑一寸位ノ松枝二十本位ヲ用ヰテE圖ノ如ク並列シ根太トナス其上ニ簀竹（引キニ用ヰタル竹ノ屑ニテ長サ三四尺ノモノ）ヲ指ノ入ル位ノ距離ニ並ヘD圖ノ如クス次ニ縱斷シタル鹽菰ヲ臺ノ兩側ニ敷キ尙其中央部ニハ一枚ノ儘ニテ鹽菰ヲ敷クコトC圖ノ如シ次ニ前回ニ使用シタルすごもノ古キモノ（俗ニすからト云フ）ヲ凡ソ一寸位ノ厚サニ敷クコトB圖ノ如ク更ニ新シキすごもヲ敷クコトA圖ノ如シ

五　鹹砂貯藏裝置

鹹砂貯藏裝置ヲ設クルモノナシ

鹹砂ヨリ鹹水ヲ採收スルニハ鹽田面ニ散布シタル細砂ニ充分鹽分ノ附着シタル時ヲ見計ラヒ柄振ニテ掻キ集メ臺ニ入レ之レヲ木鍬ニテ平ラシ足ニテ踏ミ付ク其上ニつばてヲ置キ藻垂約五斗ト海水一荷半ヲ入レテ鹹砂ニ附着シタル鹽分ヲ溶解シテ滴出セシム然レトモ鹽付キ良キ場合ニハ端掛（はなかけ）ト稱シ更ニ片荷（一斗）ノ海水ヲ注加スルコトアリ之ヲ二番ト云フ漏出シタル鹹水ハ擔桶ニ汲ミ取リ土樋ニ流シ込ムモノナリ之レト同時ニ一荷半ノ海水ヲ注キ漏出シタルモノハ即チ藻垂ニテ次回ノ採鹹ニ使用ス

六　鹹水輸送裝置ノ構造

鹹水ヲ輸送スルニハ粘土ニテ塗リ固メタル土樋ヲ用フ即チ臺ニ使用スル粘土ト同一性ノモノニシテ立岩五枚ノ大手ヨリ採取スル水ねばハ一千貫ノ價六十錢位ニシテ明神附近ノ鹽田ヨリ堀リ出シタル粘土ハ最モ上等ニシテ一千貫ノ價二圓五十錢位ナリ上樋ヲ作ルニハ土樋型ヲ置キ夫レヲ元トシテ外部ヨリ粘土ヲ塗リ固メ凹形トナス底ノ厚サ四五寸緣六寸ニシテ高サハ一定セス即チ土樋ノ末端ヨリ釜屋ニ近ツクニ從ヒ多少勾配ヲ付ケ鹹水ノ土樋底ニ停滯スルコトナカラシム

土樋ノ長　百間　面積　三十坪　勾配　百間ニ付一尺

七　採鹹用器具

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

採鹹用器具名稱	員數	効用及使用法
木鍬	大一〇八 小一八	砂ヲ敷クニ用フ
柄振	大小八	砂ヲ沼井ニ入ルヽ器
擔桶	一四	鹹水ノ運搬ニ使用ス
汲込杓	一五	海水及鹹水ヲ汲ミ取ルニ用フ
引キ板（ナラシ平）	二	撒砂ヲ引キナラスニ用フ
引鍬	二〇	撒砂ノ塊ヲ破碎スルニ用フ
擔桶棒	一四	桶ヲ荷フ棒
仝（ママ）芋	二〇〇	擔桶ヲツルモノ
水車	大二 小一	鹽田内ノ汚水ヲ排除スルモノ
溜坪	二八〇	鹹水ヲ沼井ヨリ受クルモノ
鍬	五	濱普請等ニ用フ
金先	一〇	濱ヲ堀リ又濱普請等ニ用フ
踏鋤	五	樋又ハ沼井ヲ作ル時ニ用ヒ即チ余分ノ土ヲ除クナリ
歩行板	二	

採鹹用器具名稱	員數	効用及使用法
刻木	一	樋ヨリ鹹水ヲ土藏ニ入レル時ニ用フ
受坪	四	
淺土藏打槌	一〇	
鎌	八	
斧	一本	
簀竹	七二、〇〇〇	沼井ノ下ニ敷クモノ
簀叩	一〇	
釣瓶	三	
臺型（カヽリ）	二	
皮縁（ヘリ）剝（ムキ）	二	
床摺柄振	二	床ヲナラスニ用フ
臺打棒	一	
樋型	一	撒砂ニ海水ヲ撒布スルモノ雨天ニテ床ニツカリタルヤ地盤ノ塵ヲ取ルモノ
掛ケ杓	一二	
引キ板	一〇	

八　採鹹用器具ノ新調費及保存期限

器具	新調費	保存期限
木鍬	、五〇〇	一ケ年
柄振	、六〇〇	一ケ年
擔桶	、三五〇	三ケ年
汲込杓	、三〇〇	二ケ年
掛ケ杓	、三〇〇	一ケ年半

器具	新調費	保存期限
引キ板	一、〇〇〇	四ケ年
平シ	、一五〇	一ケ年
引鍬	、一八六	一ケ年
擔桶	七〇	三ケ年
擔棒	二〇	一ケ年

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

水車	一一、〇〇〇	五ケ年	
溜坪	三五〇	十五ケ年	
鍬	六〇〇	二ケ年	
金先	三五〇	一ケ年半	
踏鋤	六〇〇	二ケ年	
歩行板	二、〇〇〇	五ケ年	
刎木	六、二〇〇	五ケ年	
受坪	三五〇	二ケ年	
土藏打槌	二〇〇	五ケ年	

鎌、手斧	二五〇	三ケ年
簀竹	一〇〇	二ケ年
埃引	二五〇	三ケ年
釣瓶	四五〇	一ケ年
臺型	五、〇〇〇	十ケ年
皮縁剝	五〇〇	二ケ年
床摺柄振	五〇〇	二ケ年
臺打棒	一五〇	三ケ年
樋型	二、〇〇〇	十ケ年

九　鹹水貯藏裝置ノ構造

鹹水貯鹽場ハ俗ニ之レヲ土藏ト稱シ一軒前鹽田反別ノ大小ニヨリ又其大サヲ異ニス然レトモ深サハ殆ント一定セリ土藏ノ構造ハ深サ一丈乃至一丈二尺ヲ堀リテ長方形トナシ吉野川ノ河口ニアル葦ノ根元ノ土（俗さめ土ト云フ）ヲ踏鋤ニテ五寸角深サ一尺五寸ニ切リ取リ之レヲ運搬シ層土ニテ底ヲ三尺位迄ニ踏ミ堅メ周圍ハ一隅ヨリ右粘土ヲ按排ヨク並ヘ一段宛叩キ堅メテ漸々之レヲ高クス底ヨリ二尺迄ノ處ハ一段高クナシ鹹水ノ漏出及地下水ノ浸入ヲ防ク俗ニ之レヲ犬走ト稱ス犬走ヨリ地平面ニ至ル迄ノ距離ハ大抵五尺乃至五尺五寸ニシテ周圍ハ悉ク粘土ニテ塗リ堅メテ厚サ三尺乃至三尺五寸トナス故ニ底迄ノ深サハ七尺五寸乃至八尺トス周圍ノ土壁及底面ハ充分槌ニテ叩キ堅牢トナレハ一間毎ニ貫ヲ當テ丸太ニテ梁ヲナス最下部ノ梁ハ犬走ノ上ニ設ケ夫レヨリ三尺ヲ距テ、又中梁ヲ作リ地面ニ接スル處ノ梁ヲ設ク此梁ヲ土臺トシテたる木ヲ交叉シ屋根ヲ葺ク之レヲ合葺ト云フ冬季鹹水ノ減シタル時土藏ノ中ニ入リテ梁ヲ取リ側壁ヲ叩キテ土藏ヲ强固ナラシム

十　鹽田地盤ノ構造

鹽田地盤ハ大抵砂土ニシテ其上ニ細砂（大磯ノ海岸ニ吹キ寄セタル細砂ニシテ撒砂ト同一性ノモノナリ）一尺乃至一尺五寸ノ厚サニ入レ其上ニ稍々粘質ヲ帶フル所ノ砂（中ねばト稱シ明神沖ノ海底ノ砂尤モ可ナリ）四五寸ヲ入レ其上面ヲ木鍬ニテ平垣ニ塗リ細砂ヲ撒布ス久シク使用スル時ハ中ねば上層凡ソ五分位ハ藺芥ノ爲メニ堅着シテ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

毛細管微弱ナラシムルモノナレハ年一回位之レヲ削リ取リ中ねばヲ鋤キ返シ再ヒ上面ヲ平垣ニ塗リテ細砂ヲ撒布ス大抵冬季特濱ノ少ナキ時ヲ利用シテ鋤キ返シ上面ヲ平垣ニ塗リテ細砂ヲ撒布ス然レトモ中ねばハ漸々其層ヲ薄クナス故修繕ノ際ニハ大抵新ラシキ中ねばヲ增加スルモノトス

十一　撒砂（鹹砂）ノ種類性質　撒砂ハ大磯ノ海岸ニ吹キ寄セラレタル細砂ニシテ本局管內ハ凡テ之レヲ使用ス其性稍々青色ヲ帶ヒ黑白混交ノ細砂ニシテ水分ヲ吸收スル時ハ黑色ノ度ヲ增シ乾燥スル時ハ青色ヲ帶フ滲透性ニ富ミ水分ノ漏出ニ適ス撒砂一石目方約六十貫アリ

撒砂種別（砂百分中）

細砂	一〇〇、〇五―〇〇、二五	一三、〇〇瓦
細微砂	〇〇、二五以下	三二、〇〇―五四、〇五
混物		

十二　撒砂（鹹砂）撒布量　撒砂ノ撒布量ハ四季ニヨリ多少異ナルモノナリ即チ鹽田ノ乾キ易キ時ニハ比較的多量ヲ撒布シ之レニ反シテ乾燥遲緩ナル時ニハ撒布量ヲ減ス之レヲ四季ニ分テハ夏季ハ最モ多量ニシテ秋季之レニ吹キ冬季ハ最モ少ク春季ヨリ稍々增加ス然レトモ年平均一畝歩ニ付約二石六斗（重量二百三十四貫）ニシテ毎年六月及ヒ九月ニ入レ砂ヲナス沼井一艘ニ要スル細砂ハ約七石八斗ニシテ其三分ノ一ヲ使用シ三分ノ二ハ常ニ沼井側ニ堆積スルモノナリ

十三　撒砂乾燥時間　撒砂乾燥時間ハ時季ニヨリテ一定セス

自	一月	自	四月	自	七月
至	三月	至	六月	至	九月
四時間		三時間		二時間半	

自	十月	
至	十二月	
四時間		

十四　撒砂浸出裝置ニ注入スル海水ノ量　臺一艘ニ注入スヘキ海水量及鹹水量ハ撒砂ニ附着スル鹽分ノ多少ニヨリ異ナル然レトモ普通海水二斗、藻垂五斗、之レヨリ生スル鹹水ハ五斗乃至五斗五升ニシテ母氏比重十五度トス藻垂ノ比重ハ大抵七度乃至九度ニシテ海水ハ三度乃至四度ヲ普通トス夏季最盛期ニ至レハ海水及ヒ藻垂ノ注入ヲ增加ス

臺一艘ニ注加スヘキ海水及もんだれノ分量

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

	自三月至五月	自六月至八月	自九月至十一月	自十二月至翌年二月
海水	二、五〇(斗)	二、五〇(斗)	二、五〇(斗)	二、五〇(斗)
もんだれ	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
二番海水		二、〇〇		
計	七、五〇	九、五〇	七、五〇	七、五〇

十五 海水、鹹水及もんだれノ性質(百分中)

	鹽化曹達	鹽化加里	鹽化苦土	硫酸石灰	硫酸苦土	温度	比重
海水	一、九三〇八	〇、〇九七八	〇、二七三二	〇、一〇六一	〇、一三二五	一七、七	二、八
鹹水	一三、七六六三	一、〇六八四	一、五一三二	〇、八五二四	〇、七三九五	一七、二	一八、〇
もんだれ	四、八一三二	〇、四九一八	〇、七三九〇	〇、三三九八	〇、五〇六六	一三、〇	七、〇

十六 海水引入、排出　海水ヲ引キ入ルヽニハ海ニ接スル堤防ノ下部ニ水閘ヲ作リ必要ノ場合ニハ木栓(俗ニいりくさト云フ)ヲ抜キ之レニ接續スル水閘ヨリ海水ヲ誘導ス此水閘ヲ俗ニ水道ト稱ス鹽田ニ面スル所ノ水道ヨリ石垣ノ溝ヲ作ル其巾三尺深サ五尺ニシテ之レニはしばヲ設ケ水車ヲ裝置シテ鹽田溝渠内ノ水ヲ排除スルニ用フレトモ干潮ノ際ニハ水道ヨリ自然ニ流出セシムルコトヲ得

十七 海水貯溜池ノ有無　ナシ

十八 鹽田一ケ年平均鹹水採收量　一軒前鹽田ニ對スル採鹹量月別表

明治三十八年	採鹹量	平均比重	明治三十八年	採鹹量	平均比重	明治三十八年	採鹹量	比重平均
一月	一九四石、五	一四、	六月	一六六石、五	一七、	十一月	四三〇石、〇	一五、
二月	三四二、〇	一四、	七月	三三八、五	一八、	十二月	三一六、〇	一四、
三月	九八、五	一四、	八月	二二五、〇	一八、	合計	四二五二、五	
四月	五六五、五	一五、	九月	四二〇、五	一七、			
五月	八八六、〇	一六、	十月	二六九、五	一六、			

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

十九　鹽田採鹹ニ要スル人ノ種類、名稱、賃銀

種類	員數	賃銀
濱曳（奉公人丁稚）	二	一ヶ年一人ニ付自二十五圓至三十圓
濱曳（仝雇女）	二	一人一日二十二錢

奉公人トハ滿一ヶ年使役サルヽモノニシテ番頭ヨリ丁稚ニ至ル六人ナリ、給料ハ二十五圓ヨリ百圓迄ナリ、次ニ奉公人ノ細則ヲ表示ス

番頭	一ヶ年ノ給料 百圓
二番	八十五圓
三番	七十五圓

種類	員數	賃銀
濱持（奉公人 男）	四	一年一人ニ付自五十五圓至百圓
濱持（仝雇仝）	七	一人一日四十五錢

番頭	一ヶ年ノ給料 四番 五十五圓
丁稚	三十圓
丁稚	二十五圓

日雇ノ給料ハ各月ニヨリテ異ナリ又濱ヲ持ツヘキ日ト持タサル日トニヨリ異ナル前述シタル賃銀ハ平均ヲ示シタルモノナリ而シテ日雇ハ平均一ヶ年百五十日働クト云フ

二十　鹹水採收時季及採鹹量ト風位トノ關係　冬季ハ降雪甚タ少ケレトモ降雨ハ時季ニヨリ大ニ異動アリ毎年五月及九月最モ降雨多クシテ採鹹ニ適セス六月ヨリ九月迄ハ氣溫高ク蒸發盛ナルタメ最モ採鹹ニ適ス冬季ニ於テモ西風烈シケレハ相當ノ採鹹量アリ

二十一　一ヶ年間ノ採鹹平均日數　一ヶ年平均採鹹日數百三十日ヲ普通トス昨三十八年ハ降雨多カリシ爲メ九十二日ノ持濱ヲナセリ

二十二　一ヶ年平均鹹水採收量

種別	上田	中田	下田
一軒前鹽田反別	七、七〇〇坪	四、九〇五坪	七、三六四坪
平年採鹹量	一〇、〇〇〇石	六、〇〇〇	八、〇〇〇
三十八年採鹹量	七、三五〇石	四、二五二、五	五、六〇〇

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

二十三　準備及特濱其他採鹹ニ關スル操作、順序、方法　荒濱手入（雨後ニ於ケル持濱ノ順序）

第一日ニハ眞隅引二鍬、横引一鍬、縦引一鍬、横隅引二鍬ヲ曳キ次ニ板曳ヲナシ撒潮ヲ行フ是迄ノ仕事ハ午前十二時迄ニ終ルヲ普通トス午後ヨリ縦隅二鍬ヲ曳キ平（ナラ）シヲ行ヒ撒潮ヲナシ此日ノ仕事ヲ終ル

第二日ハ縦横各々一鍬宛ヲ曳キ平シヲ行ヒ撒潮ヲナシ其他翌日ノ持濱ニ必要ナル仕事ノ準備トシテ坪堀リたれかす上ケ、はた入等ノ仕事ヲナス

第三日ニハこばた（臺ノ周圍ニアル鹹砂ヲ木鍬ニテスクイ撒砂ス）ヲ入レ濱掃ヘ（臺ノ傍ニ堆積シアル砂ヲ少シク掻キ出スコト）ヲナシ眞隅二鍬引キ平シヲ行ヒ縦一鍬ヲ曳キ午後ニ至リならしヲ行ヒ横隅二鍬ヲ引キ先引トシテ横ヲ引キ二三時間放置シ乾カシ午後二時頃ヨリ持濱ニ移ル即チ鹹砂ヲ柄振ニテ掻キ入レなるみ踏ト稱シ沼井ニ入レタル鹹砂ヲ木鍬ニテ平坦ニ均シ又一方ニハ撒砂ヲ行ヒ横引ヲナシ板ヲ引キ撒潮ヲ行ヒはたこかし（溝渠ノ側ノ砂ヲ木鍬ニテこかし込ムコト）ヲナス翌日朝役ト稱シ午前四時頃ヨリ受壺ノ藻垂ヲ臺ニ注入シ其上ニ一荷半ノ海水ヲ入レ杓ならしトテ沼井中ノ鹹砂ヲ掻キナテシ以ヲ浸出ヲ促進セシムル鹽付良キ場合ニハをひあげト稱シ更ニ半荷ノ水ヲ追加ス濾出シタル鹹水ハ擔桶ニテ汲ミ取リ土樋ニ運搬シテ流シ込ム

臺ニ更ニ一荷半ノ海水ヲ入レテ藻垂トナス

又手入ニアリテハ早朝ヨリ眞隅二鍬ヲ引キ次ニ板ヲ曳キ撒潮ヲ行ヒ坪堀ヲナシ垂レ糟ヲ上ケ午後ヨリ横隅二タ鍬ノ曳キ平シヲ行ヒ撒潮ヲナシはた入レヲナス（木鍬ヲ以テ溝渠ノ側ノ砂ヲ掻キ入ルヽコト）盛夏ノ如キ鹽分ノ附着宜シキ時ニハよひ引トテ縦又ハ縦隅等ヲ一ト鍬曳クコトアリ又撒砂ノ乾燥宜シキ場合ニハ追ヒ掛ケトテ撒潮ヲ行フコトアリ

其翌日ハ午前ヨリこばたヲ入レ濱掃ヘヲナシ眞隅二鍬ヲ引キならしヲ掛ケ縦横各一鍬ヲ引キ次ニ横隅二鍬ヲ引キ先引トテ横ヲ引キ二三時間放置シテ乾カシテ午後二時頃ヨリ持濱ニ移ル夫レヨリ後ノ仕事ハ前同様ノ順序ニ依リ天氣打續ケハ常ニ換ヘ持チノ法ヲ取レトモ冬季撒砂ノ乾燥惡シキ場合ニハ三日引キ濱ヲ行ヒ皆持チヲナスコトアリ然レトモ普通ハ一軒前鹽田ヲ換ヘ持チヲナス

二十四　鹹水採收ニ關スル其他ノ事項　鹹水ヲ採收スルニハ普通沼井ヘ藻垂（約五斗）ヲ入レ其上ニ一荷半（六斗）ノ海水ヲ注入シ採收スレトモ盛夏ノ如キ鹽分附着宜シキ場合ニハ更ニ半荷ノ（二斗）海水ヲ入レ以テ鹹水二荷ヲ採收ス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

乙　鹹水煎熬

一　釜屋ノ構造　普通藁葺木造ニシテ其棟ニ瓦斯出シ（結晶釜ヨリ出スル蒸氣ヲ出スモノ）アリ俗ニ之レヲ小屋根ト云フ巾六尺高サ三尺ノ板兩方ニアリ此間ニ長サ十尺巾三尺ノ戸二枚アリテ開閉自由ナリ之レヲ小屋根戸ト云フ而シテ釜屋ノ面積ハ五間ニ六間（三十坪）ナリ高サハ一間半ニシテ中央ニ至ルニ隨ヒ漸次高ク此ノ中央ニ結晶釜（巾一丈長サ一丈三尺）アリ此ノ後方ニ温メ釜アリ（巾四尺長サ六尺）此ノ右方即チ釜屋ノ一隅ニ鹹水溜アリ之レト温メ釜ノ間ニ鹹水濾桶アリ又結晶釜ノ左方稍々距離ヲ置キテ巾五尺長サ三間半ノ煮出場ヲ設ケ他ノ一方即チ焚キ口ノ前方ニ巾二間長サ四間ノ處ハ石炭置場ニテ苦汁濾桶ハ煮出場ト石炭置場トノ間ニ二重トナシ苦汁ヲ二回濾過シテ煎熬スル爲メニ斯クナシアルナリ出入口ハ三ケ所ニ設ケ即チ石炭置場ノ兩端ト結晶釜ノ後方ニアリ

二　釜及ヒ竈ノ種類　釜ニハ石釜ト鐵釜トノ二種アリ又石釜ニハ金縁ヲ板ニテ作ルモノト灰ニテ作ルモノトナリ板堤トナスモノハ即チ改良法ニ從フモノニシテ粗惡ナル釜立鹽ヲ産出スルコト少ナシ鐵釜ハ殆ント鑄鐵製ニシテ井上式ノモノニ限ル本年一月ヨリ鐵釜ニ改ムルモノ多ク其結果又良好ナリ

竈ノ構造ハ凡テ下流ニ類スレトモ異ナル點ハたいこヲ有セサル事及石炭焚場ハさな馬ト稱スル鐵製ノ枠ニシテ「ロストル」ヲ有セサル事ナリ

三　石釜及竈ノ築造方法　石釜ハ竪一丈三尺横一丈又ハ竪一丈二尺横八尺トナス釜ノ築造法ハ頗ル奇ナルモノナリ先ツ釜ノ廣狹ニ相應スル四本ノ縁金ヲ四方ニ置キ其四隅ヲ鐵ノ兩端鍵狀ヲナセル隅金ト稱スルモノニテ締付ケ置キ其中ニ厚サ約一寸直徑四五寸ノ扁平ナル丸石又ハ厚サ約一寸竪三四寸ノ稍々長方形ナル花崗石ヲ幷ヘ粘土ト鹽水又ハ粘土ト松葉灰トヲ濃厚ナル鹹水ニテ漆喰樣ノモノヲ作リ（讃岐土ニ藁灰ヲ混シ鹹水ニテ練リタルモノ）之ヲ以テ縁及石ト石トノ間ヲ塗リ繋キ尚其石ノ間ニハ竪八本横五本乃至四本ノ上下ヲ曲ケテ釣針狀トナシタル釣リ金ト稱スルモノヲ併列シテ（一釜ニ四十本乃至四十五本狹ミ込ミ下端ノ曲リハ僅カニ釜石ヲ釣リ其上ナル曲リハ釜ノ上ニ渡サレタル丸太ヨリ下ケラレタル繩又ハ針金ニテ釣リ上ケラルル又其丸太ハ釜ノ前面ノ兩端及ヒ後面ノ兩端ニ二本宛ノ高サ約三四尺角七八寸ノ石柱又ハ木柱ヲ立テ前後各別ニ横ニ石ヨリ石ヘ大丸太ヲ渡シ此丸太ヲ土臺トナシテ更ニ竪四本又ハ五本ノ小丸太ヲ渡シ（此小丸太ノ數ハ即チ釣金ノ横列ノ數ニ同クス）此小丸太ヨリ繩ヲ下ケ釣金ヲ釣タリ上ルナリ又釜ト竈トノ缺隙アル縁リ下ハ粘土ヲ以テ之レ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ヲ塗リ續クルコトヽス釣金ノ用ハ釜ノ墜落ヲ防クト共ニ此釣金ヲ釣リ上ケタル繩ニ竹片ヲ挾ミ之ヲ以テ繩ヲ捩リ釜ノ幾分ヲ上下セシメ以テ釜面ノ平準ヲ失ハサラシムルモノナリ

四 鹹水ノ輸送裝置、構造及方法　鹹水ヲ釜屋ニ輸送スルニハ鹹水溜ノ下部ニ設ケタル蜂の子ト稱スルモノニシテ徑五寸乃至八寸ノ丸太ヲ內空トナシ此孔ニ通スル樣徑一寸ノ孔ヲ外部ヨリ穿チ之レニ木栓ヲナスコレヲ鹹水溜ノ壁ニ立テ丸太ノ下部ヨリ竹樋ヲ設ケ釜屋內ノ溜壺ニ達セシム必要ノ場合ニハ前記ノ木栓ヲ拔キ自由ニ鹹水ヲ輸送セシムルコトヲ得

五 煎熬用器具ノ名稱

名稱	員數	使用法
十能	一	石炭ヲ焚クニ用フ
割槙杆	一	石炭ヲ割ルニ用フ
殼引槙杆	一 二	石炭殼ヲ掻キ出スニ用フ さな馬ノ間隙ノ燃滓馬ノ突キ落スニ用フ
櫂	一	釜內ノ鹽ヲ取リ出ス
刎櫂	一	鹽取籠ノ鹽ヲ煮出シニ刎ネ出スモノ
柄振（突柄振）	一	釜內ノ鹽ヲ突キ寄セルモノ
柄振（まぜ柄振）	二	釜內ノ鹽ヲ一樣ニナスモノ
取柄振	一	全掻キ集ムルモノ 釜ノ鹽ヲ一旦取リ出シテ苦汁ヲ滴下スルニ用フ
鹽取籠	一	鹹水ヲ貯フルモノ
鹹水溜桶	一	鹹水ヲ汲ミ上クルモノ 鹹水ヲ結晶釜ニ入ルヽ前溫メ置クモノ
刎釣瓶	一	居出シ下ニ置キ苦汁ノ滴下ニ便ナラシムル爲メ用フ
溫メ釜	一	小夢桌ノ簀ニシテ前ノ如ク用フ
簀	三束	鹹水ヲ濾スモノ
居出場用簀ごも	五枚	苦汁ヲ濾スモノ
鹹水濾桶	一	
苦汁濾桶	二	

名稱	員數	使用法
かひ込ミ杓	二	苦汁ヲ釜中ニ入ルヽモノ
炭くだき	一	炭ヲ碎クモノ
石をろし	一	
篩	一	
竈塗	一	竈ヲ塗ルモノ
釣金	四五	釜ヲ釣ルモノ
釣桁	九	釣金ヲ釣ル座
笠木	二	釣桁ノ下ニアリテ釣桁ノ臺トナシアリ
槙桁（爪てこ）	一	石炭ヲ攪拌スルニ用フ
槙桁（棒てこ平てこ）	二	全
あらめ鍋	二	使ヒ湯ヲ沸スモノ
あらめ杓	一	使ヒ湯ヲ出スモノ
苦汁壺	二	苦汁ヲ入レル壺
壁搗臼	一	釜ヲ作ルヰ灰壁ヲ搗クモノ
すじ金	一二	釜ノ周圍及中ニ嵌ムルモノ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

六　釜其他煎熬用器具ノ新調費、修繕費及保存期限

煎熬用器具	新調費	修繕費	保存期限	煎熬用器具	新調費	修繕費	保存期限
十能	六〇〇円	ナシ	四ケ月	突柄振	ナシ	取柄振ノ古キモノ再用	五日
割てこ	二、〇〇〇仝	仝	十ケ年	まぜ柄振	仝	突柄振ノ古キモノ再用	十日
引殻てこ	三、五〇〇	一ケ年一回、三〇〇	五ケ年	取柄振	一五〇仝	三ケ年一回	八日
櫂	四、七〇〇	釜立毎ニ修繕、二〇〇	五ケ年	鹹水濾桶	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	十ケ年
刎櫂	二五〇、五五〇	ナシ	十五日	苦汁濾桶	二、〇〇〇	一ケ年二回、二〇〇	五ケ年
鹽出籠	四〇〇仝	仝	四十日	かい込杓	八〇〇	釜立毎ニ新調ス	四十日乃至五十日
鹹水溜桶	一四、〇〇〇	三ケ年ニ一回、一、五〇〇	十ケ年	炭くだき	五〇〇	ナシ	五ケ年
刎釣瓶	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二ケ年	石をろし	五〇〇	釜立毎ニ新調	四十日乃至五十日
温め釜	二〇、〇〇〇	一年二回一回修繕、五〇〇	六ケ年	すり木	三〇	釜立毎ニ用フ一回限使用	五、〇〇〇ケ年
簀竹	三束一、二〇〇 五枚、四〇〇	ナシ	四ケ年	かさ・桁	五、四五〇	ナシ	一ケ年
居出場用簀ごも		仝	半ケ年	釣		仝	

七　燃料ノ種類、名稱、産地

燃料ハ通常石炭ノミ用フレトモ最モ下等ノモノナル故燃焼宜シカラス故ニ薪ヲ混用スル所アリ

石炭ハ元山炭及ヒ三池粉炭ヲ用フ元山炭ハ山口縣ニ産シ其ノ價格一萬斤ニ付三拾八圓ナリ三池炭ハ九州ニ産シ其ノ價格一萬斤ニ付四拾六圓ナリ

八　一釜ニ使用スル鹹水容量其他

一釜ニ用ユル鹹水量ハ多少ノ差アレトモ平均四石六斗ニシテ温度比重ハ時節ニヨリ異ナルモ攝氏十八度乃至十五度（ボーメ）ノモノニテ五俵三分ヲ得ルナリ之レ三等鹽ニテ二等鹽ハ二割ヲ減ス四等鹽ハ一割ヲ增ス五等鹽ハ二割增加ス二等鹽及一等鹽ヲ製スルハ甚タ困難ニシテ收支償ハサル故普通ハ製造セス

九　煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合

元山炭ニ對シ一割乃至二割半ノ三池粉炭ヲ用フ即チ一晝夜ニ元山炭五百貫三池炭二十四貫又ハ元山炭四百貫三池炭百五十貫ヲ用フ混合割合ハ一定セス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

十 鹹水浸出裝置　鹹水濾過器ハ長サ四尺巾二尺五寸深サ三尺ノ木製箱ナリ此ノ箱ノ側面ノ下部ニハ徑三寸餘ノ穴アリ此ノ穴ニ竹筒ヲ嵌メアリ此ノ竹筒ヨリ濾シタル鹹水ヲ溫メ釜ニ入ル樣ナシアリ此ノ箱ノ內部ハ底ヨリ六寸上ニ根太ヲ入レ此レニ竹ヲ敷キ此ノ上ニ小麥稈蓆ヲ敷キ之レニ細砂ヲ一尺二寸餘置キ此ノ上ニ蓆ヲ置キシモノナリ使用ノ際ハ上ヨリ鹹水ヲ汲ミ入レ蓆砂等ヲ通シ竹筒ヨリ出サシム

十一 人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀

種類	名稱	員數	賃銀
日雇	棟梁	一	一日ニ付、四三〇
仝	二番	一	、四二〇
仝	三番	一	、四二〇

十二 一晝夜ニ於ケル釜數及鹹水量及收鹽量　釜數ハ鹹水ノ濃淡及ヒ焚キ方等ニヨリ異ナレトキ平均十二釜ヲ焚キ得ルナリ鹹水量ハ四十八石ニテ其製鹽量六十俵ヲ得四等鹽ヲ製スル場合ハ前俵數ヨリ六七俵減スルナリ而シテ一俵ノ斤數ハ平均四十二斤ナリ

十三 一戶前製鹽總量

一等鹽	一、九二〇斤	四等鹽	八九、〇八〇斤
二等鹽	六八、六四〇	五等鹽	一〇、二八〇
三等鹽	六三、〇四〇	合計	二二二、九六〇

十四 居出シ場ノ構造　居出シ場ハ長サ四間巾一間二尺アリテ結晶釜ノ側面ニ向ヒ家ニ附着シアリ下部ハ簀竹三束程ヲ敷キ此ノ上ニ小麥稈製ノ簀ヲ敷キ砂ヲ五寸ノ厚サニ敷キ然シテ此居出シ場ハ三ツニ仕切リ三晝夜分ノ製鹽ヲ置クヲ得

十五 煎熬ニ關スル操作及ヒ方法　鹹水濾桶ヨリ竹筒ヲ通シ溫メ釜ニ導キ沸騰セシメ杓ヲ以テ其ノ鹹水ヲ結晶釜ニ入レ煎熬シ時々上面ニ浮ク垸及ヒ石灰ヲ泡取ニテ取リ去リ又時々ヤセ柄振ヲ以テ結晶シッヽアル鹽ヲ攪拌ス出來上リシ時ハ取柄振、突柄振ヲ以テ釜ノ一方ニ鹽ヲ集メ櫂ヲ以テ其ノ鹽ヲ掬ヒ鹽取籠ニ入ル此ノ法ハ眞鹽ノ製法ニテ差鹽ノ際ハ鹽ノ結晶スル前ニ苦汁三斗乃至四斗ヲ杓ニテ漸次加フ其他ノ操作ハ眞鹽ノ場合ト同シ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

十六　釜竈ノ變遷並ニ燃料ノ變遷　釜ハ總體丸形ノ石ヲ以テ作ラレ居リシモ其成蹟不良ナル爲メ平ナル石ヲ以テ作ル樣ニナリ昨年六月以後ニ於テハ鐵釜ニ改メ石釜ノ如キモ釜ノ四側ヲ板ヲ以テ作レリ此ノ結果良好ナリ又石炭ハ漸次高價トナリシ爲メ以前ハ一種ノ石炭ノミナリシモ近時ハ粗惡ノ元山炭ニ三池炭ノ如キモノヲ混シテ用フ

十七　煎熬ニ關スル其ノ他ノ事項　煎熬中ニ於テ焚口ヨリ黑煙ノ釜ニ入ルコト多シ故ニ之レヲ防ク爲メ戶ヲ焚口ニ閉チ又雨ノ入ルトキハ小屋根戶ノ一方ヲ閉チテ雨ノ釜中ニ入ルヽヲ防クナリ

十八　一ケ年間ノ平均煎熬日數　一ケ年間ニ於テ平均二百三十日煎熬ス

十九　一ケ年間ノ平均收鹽量　明治三十三年ヨリ同三十七年ニ至ル五ケ年間ノ平均收鹽量四十一萬五千六百五十斤

二十　採鹹及煎熬總費用

		上田 七、七〇〇坪		中田 四、九〇五坪		下田 七、三六四坪	
		平年	三十八年	平年	三十八年	平年	三十八年
小作者支辨	石釜	五、〇五〇、六四八円	五、二五九、六二九	三、一〇七、三〇九	三、四三七、五〇〇	三、七一一、四〇八	四、〇二四、〇四一
	鐵釜	四、八九四、一三〇	四、二〇七、三八八	三、一〇一、五三六	三、三四四、〇二八	三、五六三、八五八	三、八七七、九〇七
自作者支辨	石釜	五、〇一六、七九一	四、九〇三、一七二	三、一三四、九三一	三、三三七、九三六	三、八一六、八七九	三、九七七、五一二
	鐵釜	四、八六〇、二七七	四、八五〇、九八一	三、二八六、六九二	三、二四四、四六四	三、六〇九、三九	三、八三一、三七八

二十一　鹽田一戶前收支計算表　三十八年度　鹽田反別（八千九百五十坪）

收入高　一月一日ヨリ十二月三十一日迄

金額　摘要

五、一九三、〇六〇円　鹽一萬二千六百六十五俵

內譯
- 五〇七、一一〇　千九百七十一俵代　第一番釜三十四日
- 一、〇五三、四九〇　二千百二十三俵代　第二番釜四十日焚キ
- 一八七、〇四〇　四百十一俵代　七日焚キ
- 三、四四五、四二〇　八千百六十俵代　百三十七日焚キ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

支出金額　六、一八一、九三五円

内譯

金額	摘要
一九三、八五〇	諸費
三二、一〇〇	菰一萬五千四十枚
九〇、八五〇	繩五百三十五束
四二、五〇〇	木鍬及濱道具及竈道具作料共
三二、五〇〇	新荷桶五、杓八本、直シ及輪代共
二五、〇〇〇	金先及鍛治作料
三五、〇〇〇	砂五十艘代
二一、〇〇〇	松木二千貫代
一六、五〇〇	竈石六塗代
一〇、九〇〇	すごも三百枚
一五、〇〇〇	釜家石油代
一二、〇〇〇	新聞廣告料
五、四五〇	捨土代
三八、六五〇	殻捨賃
五、五〇〇	鹽積賃八千百六十俵分
三、四〇〇	荷桶ノ緒二百二十筋
四、八〇〇	讃岐壁三十四荷
	引ノ子竹四十束

金額　四、五〇〇円

金額	摘要
二、二八五、一七五	藁三百束
一〇八、〇〇〇	石炭代　五百十八圓　三池二十艘　四百貫　千七百六十七圓十七錢五厘　元山百七艘
九六、〇〇〇	番頭ノ年給
七八、〇〇〇	奉公人二番給料
四五、〇〇〇	仝三番年給
二五、〇〇〇	仝四番年給
一五、〇〇〇	仝丁稚年給
三二四、〇〇〇	奉公人六人ニ付一ヶ年分飯料
九六四、〇〇〇	小作料一ヶ年沼井一臺ニ付八俵半
一一五、〇〇〇	地租及諸上納
二八九、六八〇	釜焚賃
六七八、六二〇	濱持及日役賃
一三六、九八〇	釜家及炭納屋造作賃
二四〇、〇〇〇	三十七年ヨリ持越鹹水四十日分
一三、〇〇〇	粘土十艘代
一八〇、〇〇〇	諸雜費
	差引
	總損金高九百八拾八圓八拾七錢五厘

二十二　其他採鹹煎熬方法

以前ハ九形ノ釜石（吉野川ヨリ産出スル流レ石）ヲ用ヒタレトモ現今ハ平タキ石（厚サ一寸縦横各四五寸ノ花崗石）ヲ用フルモノ多シ又鹹水及苦汁ハ必ス濾過スルコト、ナシ鹽取籠ニ掻キ出シタルモノハ可成早ク煮出シ場ニ刻ネ一晝夜ニ十數回竹ニテ突キ苦汁ノ滴下ヲ促進セシム

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第四章　製鹽及副產物種類用途

一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別及各別ノ數量（鹽田一七、七〇〇坪）

一等鹽	眞鹽	一千九百二十斤	四等鹽	差鹽	八万九千〇八十斤
二等鹽	眞鹽	六萬八千六百四十斤	五等鹽	差鹽	一万〇二百八十斤
三等鹽	眞鹽	六萬三千〇四十斤			

半差（一釜ニ付苦汁貳斗）　丸差（一釜ニ付苦汁四斗）

二 鹽ノ理化學的性質　鹽ノ色澤ハ鹹水中ニ含有スル有機質ノ多少ニ依ル又鐵釜ノ鹽ハ多少製鹽ニ着色ヲ與フルモノヽ如シ結晶ノ大小ハ煎熬中ニ於ケル火力ノ强弱ニヨル即チ鐵釜ハ結晶大ナレトモ石釜ハ小ナリ當所管內ニ於テハ鹽ノ色澤殆ント一定セリ白色、灰白色、帶褐色等ナリ

三 鹽ノ主要用途　本齋田ニ產出スル食鹽ハ大抵漁業用漬物用二三等鹽ハ味噌醬油ニ用フ

四 鹽ノ容量ニ對スル重量

一等鹽	一石	二十四貫	四等鹽	一石	二十七貫
二等鹽	一石	二十五貫	五等鹽	一石	二十八貫
三等鹽	一石	二十六貫			

五 苦汁ノ用途　舍利鹽、芒硝及ヒ炭酸苦土製造用、肥料用、昆布製造用、豆腐製造用

六 苦汁利用ノ方法　豆腐製造用ニハ蛋白質ヲ凝固セシムルニ用ヰ昆布製造ニハ苦汁ヲ以テ浸濕法ヲ行フ

七 苦汁ノ生產量　一晝夜ノ製鹽高ニ對シ二石三斗ノ苦汁ヲ生ス

八 苦汁ノ貯藏裝置及ヒ貯藏方法　煮出シ場ニ於ケル鹽ヨリ滴下スル苦汁ハ其下部ニ設ケタル粘土叩キノ溜ニ入ル副產物製造者ハ此苦汁ヲ豫約シテ時々採收シ來リ土藏ニ運ヒ入ル鹽取籠ノ下部ニ滴下スル苦汁ハ普通結晶釜ニ注入シテ差鹽ニ用フ若シ苦汁量ノ減シタル時ハ其餘分ヲ桶ニ入レテ貯フ

九 苦汁一石ノ賣買價格　苦汁ノ價格ハ普通一晝夜分十六錢ナレトモ本年ハ鹽ノ產額少ナキ故隨テ苦汁ノ滴下量減シタレハ價格非常ニ騰貴シ一石ノ價十二錢ヲ普通トス

十 苦汁ノ運搬方法及其販路　苦汁ハ多ク大阪ニ運搬シテ豆腐製造用又ハ昆布製造用ニ供ス大抵樽詰トナシ運搬ス然

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

レトモ上荷船ニテ六七十石積ミノモノニ苦汁ヲ其儘（容器ニ入レス）入レテ運搬ス

十一　苦汁ヨリ生スル副産物製造及製造方法

（一）舎利鹽製造　製鹽ノ際生スル苦汁ヲ貯ヘ越冬法ヲ行フ時ハ半透明ノ結晶體ヲ生ス之舎利鹽ノ不純結晶ナリ（俗ニがりト云フ）之レヲ採收シテ原料トナス製造ハ毎年十一月ヨリ翌年五月ニ至ル七ケ月間ニシテ讃岐がりハ十貫目ノ價五十錢撫養がりハ十貫目ニ付八十錢ニシテ眞鹽ヨリ生スルがりハ鹽化曹達ヲ多量ニ含有シ舎利鹽ノ製造上甚タ困難ナル故十貫目ノ價五十錢ノ割合ナリ冬期苦汁溜ノ壺内ニ結晶セシがり（俗ニ壺がりト云）ハ最モ上品ニメ其價十貫目ニ對シ一圓位ナリ撫養地方ニテハ苦汁其儘ヲ購入シ各自ノ苦汁溜ニ貯フ苦汁一荷（四斗）ノ價七錢ニシテ一荷ノ苦汁ヨリハ冬期ニ至リがり一貫六百目ヲ得舎利鹽ノ製造法ハ簡易ナルモノニシテ不純結晶ノ舎利鹽ヲ精製スルニアリ即チがりヲ溶解鍋ニテ比重一、三五ニ溶解シ汚物沈澱槽ニ移シ汚物ヲ沈澱セシムルコト凡ソ十時間其上澄液ヲ砂ニテ濾過シ結晶箱ニテ結晶セシム之ヲ乾燥室ニ凡ソ一ケ月間貯藏シテ販賣ニ供ス濾液ニハ尚硫酸苦土ヲ含有スル故次液ニ混ス結晶箱ハ温度五度乃至十度ノ冷所ニ放置スル時ハ表面ニ凝結ヲ生ス凝結シツヽアル表面ヲ攪拌シ噴霧器ニテ水ヲ撒布シ表面ヲ稀薄ナラシメ下層ヨリ結晶ヲ起サシム然ラサレハ上品ヲ得ス其順序ハ第一日ニ溶解汚物ヲ沈澱セシメ第二日濾過結晶箱ニ移シ第三日ハ結晶ヲ取リ擧クルナリ

（二）炭酸苦土製造法　炭酸苦土ハ舎利鹽製造ノ副産物トシテ採收スルモノナリ原料ノ苦汁一荷（四斗）ヲ金七錢ニテ購入レ之レヲ冬期迄貯藏スル時ハ壺がり一貫六百目ヲ得此價一貫目ニ付金八錢ヲ得ルヲ以テ原料タル苦汁ハ無代價トナルナリ場合ニヨリテハがりヲ採集セスシテ原料トナスコトアルモ之レハ殆ント稀ナリ製法トシテハ炭酸曹達ヲ注加シテ炭酸苦土ヲ沈澱セシムルニアリ

最初炭酸曹達ヲ百度ノ温度ニ於テ（比重一、二四三）溶解シ（二百二十四磅ニ水二石ノ割合）沈澱器ニ入レ二時間放置スル時ハ汚物ハ悉ク沈澱ス之レヲ化合鍋ニ移シ常温度比重一、二八ヲ有スル（砂濾シタルモノ）苦汁ヲ除々ニ攪拌シツヽ百十二斤ノ炭酸曹達ニ苦汁一石ノ割ヲ以テ混合シ二倍半ノ水ヲ加ヘテ稀薄ナラシメ四十三度乃至三十八度ノ温度ヲ保タシメ放置スルコト一時間ニシテ之レヲ煮沸鍋ニ移シ攪拌シツヽ八十度ニ熱シ金網ノ篩ヲ以テ結晶ヲ均一ニシツヽ洗滌箱ニ入ル洗滌箱ノ下層ニハ三寸ノ厚サニ砂礫ヲ入レ木綿布ヲ敷キ以テ濾過ス其濾液ハ一ノ溜壺ニ取リテ次回ニ混和スル水ニ代用ス炭酸曹達ノ過量又ハ苦汁ノ過量ヲシテ損失ナカラシム而シテ漏液ノ濃厚トナリタル時ハ鹽化曹達ノ製造原料トナス漏液ヲ去ル時

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ハ徐々ニ水ヲ注加シテ充分之レヲ洗滌シ他物ヲ無カラシムルコト約八時間沈澱ヲ壓搾シテ水分ヲ脫出セシメ第一ノ乾燥器ニ入レ百度ノ温度ヲ以テ急激ニ乾燥セシムルコト一時間半一回上下ニ轉倒シ急激ニ六分以上ノ水分ヲ放散セシム然ラサレハ粉末トナスノ際多ク手數ヲ要スルヲ以テナリ之レヲ第二乾燥器ニ移シ二十二度以上ノ温度ヲ以テ七十二時間乾燥ス之レヲ粉末器ニ懸ケ八貫入レ袋ニ入レテ販賣ス價格金八圓ナリ

（三）藥用鹽化曹達ノ製造法　炭酸苦土ノ濾液ハ比重一、〇七度ヲ有シ殆ント純鹽化曹達一三%含有スルヲ以テ之レヲ蒸發シテ結晶セシメ之レヲ蒸溜水ニ溶解シ比重一、二ヲ砂漉シトナシ蒸發シテ結晶ヲ起サシム結晶ハ結晶ヲ起セシヨリ順次掬ヒ揚ケ水分滴下器ニ入シ數日間水分ヲ滴下セシム然ルトキハ漏液ハ尚多少ノ鹽化曹達ヲ含ムヲ以テ次液ニ混ス煮詰マラサル前結晶ヲ引キ上クルハ多少夾雜物ヲ含ミ居ルヲ以テナリ又甚タシク硫酸鹽類ヲ含ム場合ニハ砂漉シニスル前其量ヲ觀察シテ鹽化バリウム液ヲ加ヘ硫化物ヲ沈澱セシム然ル時ハ殆ント純良ナル鹽化曹達ヲ得

十二　副産物ノ種類、名稱及用途

一、硫酸苦土（含利鹽）　工業用及藥用
一、炭酸苦土　仝

十三　副産物ノ價格及販路

硫酸苦土	一〇〇斤	三、〇〇〇円	販路 大阪	硫酸曹達	一〇〇斤	一、八〇〇円	仝
炭酸苦土	一〇〇斤	一六、〇〇〇	仝	鹽化曹達	一〇〇斤	一五、〇〇〇	仝

十四　鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ産出額、其使用方法、販賣及價格　鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出シ鹽、釜立鹽等ノ産出額ハ甚タ錯雜ナル故調査ニ苦シム是等ハ皆鹹水ニ溶解シテ煎熬ス價格及販路一定セスト雖多クハ攝津尼ケ崎及長州邊ヘ輸出ス

第五章　鹽ノ包裝及秤量

一　從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量

二斗五升五合　七貫目　需用者ノ望ニヨリ一斗二升入若クハ四斗五升入ノモノヲ作ルコトアリ

二　包裝ノ形狀、種類　包裝ハ凡テ藁ニテ編ミタル掛四筋ノ菰ニテ從來本齋田ヨリ産出スル食鹽ハ此包裝ヲ以テ一定

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

セリ

三　包裝ノ編製方法及其原料　從來ノ包裝即チ鹽俵ハ藁ニテ編ミ其原料ハ凡テ稻藁トス

四　各種包裝ノ價格　鹽俵百枚ノ價　一圓二十錢　繩　一束　五錢五厘

五　包裝單複ノ　包裝ハ凡テ一重ニシテ販路先ニヨリ異動アルコトナシ

六　包裝ニ附記スル商標其他記號ノ種類

登錄　◎㊎◎　商標

登錄　◎◎※　商標

七　秤量器ノ種類　秤量器ハ一升桝及五合桝ヲ以テス

斗桶ハ一斗三升入ル故一俵ニハ斗桶二杯ヲ入ルヽモノトス

第六章　貯藏方法

一　倉庫ノ構造及壁床ノ構造　倉庫ハ一軒前鹽田ニ付一棟ヲ有ス大抵二間半ニ五間ニシテ周圍ハ壁ヲ以テ圍ミ其上ヲ一間位板張トナス床ハ凡テ細砂ヲ以テ敷キ詰メ苦汁ノ吸收ヲ容易ナラシム

二　貯鹽方法及俵損傷ノ程度、狀態　從來撒鹽トシテ倉庫ニ貯藏スルコトナシ凡テ包裝シタルモノヲ買手ノ來ル迄貯ヘ置ケトモ二十日以上貯藏スルコトナク大抵五六日位ナレハ俵ノ損傷スルカ如キコトヲ認メス

三　俵裝ノ大小ニヨル積揚ノ高サ若クハ俵數及積上方法　俵ノ積上ケハ普通四俵積ナレトモ包裝鹽ノ多量ニ出來タル場合ニハ五俵積ミトナスコトアリ

第七章　鹽ノ販賣

一　從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法　鹽ヲ販賣スルモノハ凡テ問屋ニ出タス是レ製鹽者ハ常ニ鹽問屋ヨリ資本ノ融通ヲ受クル故製鹽ヲ以テ償フ者ナレハナリ問屋仲買人ハ各製鹽家ニ就キ時價ノ相場ヲ定メ積取時期ヲ協定シ約定金幾分ヲ拂ヒ込ミ積入ニ際シ鹽ヲ一場ニ集メ豫テ定ムル桝取人ノ抽籤ヲナシテ二百俵毎ニ一俵ノ檢查ヲナシ容量二斗五升五合ヲ計リ引渡スノ例トス此場合ニ於テ不足ノ容量ハ追加スルモ超過ニ屬スルモノハ引渡サス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

問屋ハ仲買人ヨリ資金多キ商人ニシテ仲買人及船頭等ノ買集メタルモノヲ五分口錢或ハ六分口錢ト稱シテ資金ノ五分或ハ六分ヲ與ヘ買求メ他府縣ヘ輸出シ或ハ地方小賣人ニ賣却スルモノナリ

仲買人ハ製鹽者ヨリ買集メ問屋ニ賣込ミ或ハ自ラ小賣ヲナス

二　鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買スル運搬方法　船頭カ鹽ヲ買ヒ受クルニハ問屋ヨリスルモノト直接濱家ヨリ買受クル場合ニハ此賃銀ヲ船頭ノ負擔トス船頭ハ鹽注文ノ際先キニ半額ノ鹽代ヲ送金シ現品授受ノ際殘金ヲ渡スヲ普通トス

船頭ノ給料ハ一ケ月五圓位ニシテ船頭ノ外船員一名若クハ二名ニシテ船頭モ雇入ナル時ハ八圓位ナリ然レトモ一度東京迄荷積ミヲナス時ハ船中ニ於テ鹽ノ改裝ヲナシ二三百俵ノ增俵ヲナスコト普通ノ習慣ナレハ夫レニ對スル利益ハ船員及船頭ノ收入トナル故一度上方ヘ上ル時ハ少クトモ五六十圓ノ實收入アルモノナリ

三　從來ニ於ケル鹽ノ販路　本齋田產鹽ノ販路ノ主ナルモノヲ擧クレハ東京、相州、浦賀、遠州、三州、伊勢、紀州、淡路等ニシテ東京及ヒ浦賀地方ヘハ十二ケ村製鹽ノ七分ヲ輸出スト云フ

四　鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スル有無及其方法　鹽商ハ多ク石炭商ヲ兼業セル故製鹽者ハ鹹水ノ採收量若クハ製鹽見込高ヲ豫定シテ鹽商ヨリ資金ヲ借リ入ルヽコトアリ其償却法ハ鹽ヲ煎熬シタル際時價ヲ定メテ差引キスルヲ一般トス

五　從來ニ於ケル鹽ノ濱相場、小賣價格

（三十七年以前三ケ年間鹽濱相場）

	一石當リ	一升當リ
	鹽ノ相場	小賣相場
明治三十五年	一圓三十六錢四厘	一錢九厘
同　三十六年	一圓四十六錢五厘	二錢一厘
同　三十七年	一圓三十錢七厘	一錢八厘

六　鹽價ノ定メ方　鹽價ハ凡テ東京ヲ基礎トナシ東京地方ニシテ鹽ノ拂底スル時ハ自然鹽價ノ騰貴スルモノナシハ從テ製產地ノ價格ヲ變動セシムルモノナリ然ラサルモ鹽價ハ常ニ米麥ニ伴フモノナレハ製鹽者ヨリ鹽價ヲ變動セシムルコト

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

甚タ少ク多クハ他働的ニ鹽價ノ定マルコト多シ

七　販賣ノ季節　製鹽者ハ一ケ年中煎熬ヲ休止スルコトナケレハ時ヲ定メス販賣ス然レトモ製鹽ノ最モ盛ンニ賣レ行ク時季ハ七月及十二月ニシテ之レニ反シ二月、三月ハ販賣少シ是等ハ年ノ豐凶及金融ノ關係ニヨリ多少ノ差アリト雖從來ヨリ凡ソ一定セルモノヽ如シ

八　鹽ノ俵拔キ檢查ノ方法　從來ノ鹽俵ハ一俵ノ容量二斗五升五合トナシ鹽業組合事務所ニ於テ一々製鹽輸出ノ際ニ於テ事務所ハ役員立會ノ上抽籤ヲ以テ瀨取船一艘ニ付キ一俵ヲ出サシメ其容量ヲ精查シ少シノ不足アルモ其總俵數ニ對シ何レモ二斗四升九合ノ割合ニ換算シ買主ニ差シ渡スコトヽ定メ置ケリ

九　鹽ノ受渡シニ際シ重量容量ノ減少ハ如何ニセシカ　鹽ノ受渡シハ從來ヨリ容量ヲ以テセシニヨリ若シ撰定俵ニテ步減アル時ハ其總俵數ニ對シ何レモ差引シテ換算シ買主ニ渡スヲ普通トス本齊田ニテ二斗五升五合入ト稱スルハ實量二斗五升入トス尙ホ小賣一升ノ實量ハ二百八十匁ナリトス

十　鹹水賣買ノ有無及其方法　鹹水ノ賣買ハ自己ノ都合ニヨリ相場ヲ定メ引キ渡スモノナリ大抵一晝夜分即チ百〇五荷ヲ基トナシ其容量ヲ見積リ鹽ノ相場石炭ノ價格及ヒ石炭消費量ノ見込鹹水比重ノ度合ヲ考ヘ双方ヨリ相場ヲ定メ買手アレハ之レヲ引キ渡スモノナリ明治三十六年頃ニハ一晝夜分ノ鹹水容量七圓六十錢位ナリ

十一　製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其ノ方法　該當事項ナシ

第八章　鹽運搬方法及運搬費

一　從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法其他　鹽ヲ運搬スルニハ上荷船ニテ二百五十俵位ヲ縱又ハ橫積ミトナシ必ス同一俵數ヲ順序ヨク積ミ重ネ一見シテ其數量ヲ知ルコトヲ得易カラシム

二　各種運搬方法ニ依ル各運搬先迄ノ鹽一定量ノ運賃其他　濱方ヨリ上荷船ニ運フ運賃一俵ニ付四厘六毛本船ニ積載スル手數料其他一俵ニ付九厘

本船ニ鹽ヲ積ミ保險ヲ附スルニハ其時價ヲ見積リ全額ノ八厘乃至一分ヲ以テ保險金トナシ保險ヲ附ス　東京ニ至ル迄ノ運賃ハ鹽一俵ニ付七錢

鹽ヲ積載シタル船ハ荷先地ニ至リ諸掛金ヲ要スルコトハ處ニヨリ一定セス又全ク徵收セサル處アリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第九章　小作人ト地主トノ關係

一　小作人ト地主トノ關係　小作人ト地主トノ契約書ハ左記ノ如クニシテ日常ノ需用品即チ米麥等ヲ仰クコトナシ然レトモ年ノ豐凶ニヨリテハ多少ノ特典ヲ受ク即チ著シク不作ノ場合ニハ加地子ヲ削減スルコトアリ

鹽田借請小作約定證

阿波國板野郡高島村字北

一、鹽田一町七反十五步　一、宅地一反一畝九步　一、畑十五步

右同斷

一、釜家　一棟　一、鹽納家　一棟　一、水潮土藏　二棟　一、製事場　一棟　一、雪隱　一棟

前記附屬ノ儘借請小作候ニ付約定スル條項左ノ如シ

第一條　借請小作年限ハ明治三十六年一月ヨリ向明治四十年十二月迄五ヶ年ノ約定

第二條　前條年限ニ定ムルモ採鹽季節ハ每年會議ノ公決ニ據リ止業スル者ナレハ年ノ採鹽執業日ヲ以テ之ヲ一ヶ年ト做ス

第三條　小作加地子ハ一ヶ年分製鹽一千五百七十七俵約定ニ有之且納入ハ左ノ項目ニヨリ相渡可申候

第一項、加地子鹽納入ノ義ハ焚立竈ノ度每ニ割賦シ一ヶ年ノ塗ト相定メ每期竈焚附日以後十日ヨリノ出來鹽ヲ以テ一期分則チ五百二十六俵定期無相違相渡可申候

第二項、焚立竈日數ハ三十三日ヲ限リ一期分ト相定候モ拙者ノ都合ニヨリ定外日數ヲ要求スル時ハ一日ニ付十三俵宛時々鹽納可致候

第三項、容量ハ現今ノ鹽會社々則ノ定桝ヲ以テ相渡可申候萬一積鹽當リ欠升有之候時ハ拙者ヨリ辨償可致候但シ其許ノ御都合ニヨリ該鹽貯藏被成候トモ消竈以後二十日以內欠升ハ全ク拙者ノ辨償仕約定

第四項、時勢ノ變遷ニヨリ製鹽升改革有ル時ハ本條第三項ノ約定ニ基キ起算上本條加地子全額ノ製鹽相渡可申候

第四條　鹽田修繕及地所建物ニ係ル租稅ハ始メ前年度ヨリ追徵金、國稅、地方稅、町村費、其外鹽業上ニ關スル一切ノ諸賦課、公費ハ全ク拙者負擔支出スルヲ以テ相當加地子額ヨリ加地子低減相定メラレタル義ニ付諸上納金ハ勿論諸課費トモ當期ニ無遲々調達可致候

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第五條　借請鹽田ニ關スル自他國同業百般ノ決議ハ悉ク遵守實行可致候

第六條　第五條ノ精神ニ對シ若シ抵約所爲有之時ハ該責任負擔ノ上違約金總テ拙者ヨリ辨償仕ヘク候

第七條　竈焚立及ヒ消竈ハ當日ヲ以テ必ス其許報可致候

第八條　自他ノ採鹹水ヲ賣買スル異意加地子納入ニ關係勘カラサルニ付賣買及貸借等ハ決シテ致間敷候

第九條　借請小作年限中拙者ヨリ他人ヘ亦小作等致間敷候

第十條　小作年限中豐凶ニヨリ加地子減額及延期入割等決シテ申出間敷第三條定約ノ如ク必ス履行可致候

第十一條　前條項ノ約定ニ對シ請求セラルヽ廉有之カ亦ハ違約等ニテ地所引揚ニ際シ若シ旅行寄留等ノ爲メ不在宅ノ節ハ曾テ齋田村淺野佐平次ヘ諸般處辨ノ委任シアルヲ以テ三原喜太郎ヨリ係ル請求セラルヘシ

家族ハ勿論親戚雇人等ニ至ル迄決シテ故障申立間敷候

右前頭ノ條項ニ對シ拙者違約ノ所爲有之ニ於テハ假令借受年季中ト雖トモ小作引揚ニ相成候時ハ無苦情地所建物悉皆返却可致候最モ加地子其外一切支辨金差閊ヲ生シ濟算難相遂候時ハ拙者所有ノ財產速ニ賣却シ無遲滯辨償可致候萬一拙者濟算難相整候節ハ證人借主ニ代リ速ニ辨償可致候依テ爲後日證人加判鹽田小作約定證書如件

明治三十六年一月

板野郡鳴門村大字高島村字北三番
小作人　長濱庫藏㊞

同郡瀨戸村大字明神村
證人　森增吉㊞

板野郡撫養大字立岩
三原喜太郎殿

第十章　組合

一　鹽製造組合ノ組織、規定及沿革

當地方ニ於ケル鹽業會社ノ規約及職制

(一)本齋田鹽業組合事務所ノ規約及職制

當組合組織ノ範圍　當組合ハ德島縣板野郡撫養町ノ內八ケ村及鳴門村ノ內大字三ツ石村、瀨戸村ノ內大字明神村、同小島

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

田村ノ鹽業者ヲ以テ組織ス

本所ト支所ノ位置　本所ハ德島縣板野郡撫養町大字黒崎村四百二十六番屋敷ニアリ亦支所ハ同郡同町大字辨財天村百三十八番屋敷ニ設置ス

當組合ノ目的

（イ）當組合ハ同業者ノ弊習ヲ矯正シ產出食鹽ノ品位ヲ改良シ益々販路ノ擴張ヲ圖リ同業者ノ福利ヲ增進スルモノトス

（ロ）當組合ハ同業者ノ需用ニ要スル石炭ノ品質及價格ヲ鑑定シ專ラ同業者ノ需用ニ應シ公平均一ニ供給スルモノトス

當組合ノ費用徵收法　當組合ノ費用ハ組合員各戶買入石炭一千貫目ニ付金十八錢五厘ヲ賦課徵收シ其金員ヲ以テ之ヲ支辨シ若シ前項ノ收入ヲ以テ不足アル時ハ組合鹽田ノ地價ト反別ト折半シテ賦課徵收スルモノトス

當組合ノ職制

一、組合長　一名　組合長ハ組合ノ事務ヲ總理ス（創立ノ際ヨリ久シク組合長トシテ功勞ノ多カリシハ平野伊之太ニシテ現組合長ハ山本善七ナリ）

一、副組合長　一名　副組長ハ組合長ヲ補翼シ組合長事故アル時ハ代理スルモノナリ

一、取締長　一名　副取締長　一名　取締中互撰ヲ以テ正副取締長ヲ置キ正副組長事故アル時ハ代理スルモノトス

一、取締　七名　取締ハ正副組長ト共ニ事務ヲ分擔スト雖モ常ハ其村內ノ事務ヲ總ヘ且石炭鑑定ノ事務ヲ兼任ス

一、出納係　一名　出納係ハ總ヘテ組合ノ積立金經費ヲ司リ組長ノ命ヲ得テ出納スルモノトス

一、書記　二名　一、拂取　六名

（二）高島鹽炭合資會社ノ目的及營業ノ概要

當會社ノ位置　當會社ハ德島縣板野郡鳴門村大字高島村七十八番屋敷ニ置ク

當會社ノ目的　當會社ハ高島產鹽ノ品質及同輸出鹽ノ容量ヲ檢查シ其販路ヲ擴張スルヲ以テ目的トス

當會社ノ營業　石炭ノ仲買及高島產出ノ食鹽仲買ヲ以テ主要ノ營業トス

當會社ノ業務擔當　一、業務擔當員ハ六名トシ任期ハ一ケ年トス　二、擔當員ノ互撰ヲ以テ出納係一名ヲ置ク出納係ハ當會社ノ經費ヲ司リ兼テ金錢出納等ノ業務ニ服スルモノトス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

二　鹽販賣組合ノ組織及沿革　　食鹽販賣ニ就テハ弘化年間藩主特ニ江戸市内ニ問屋ヲ置キ以テ阿波各濱ノ製鹽ヲ一手ニ賣捌カシムルノ制ヲ設ケタリト雖其不便鮮カラサリシカハ僅々四五年ニシテ廢止セリト云フ又明治元年ヨリ同三年マテハ鹽業者ノ團結ニ成レル會社ニ於テ食鹽ノ俵裝及品質ノ檢閲ヲ始メタリト雖モ其規律整ハサリシヲ以テ明治八年ニ至リ更ニ訂約シテ規則ヲ整頓シ同十年ニ至リ內務省ノ許可ヲ得テ鹽改會社ナルモノヲ設置セリ明治十八年九月農商務省ヨリ三項ノ令達ヲ發セラレ總テ十州鹽田ハ（陰曆二月ヨリ八月迄）所謂三八法六ケ月間ノ營業トナスヘキノ制限ヲ加ヘラレタリ然ルニ一旦此令達ノ到ルヤ鹽業者ハ該令達ヲ以テ或ハ是トシ或ハ非トシ物議紛々停止スル所ヲ知ラス越ヘテ同二十年ニ至リ時ノ農商務大臣井上馨神戸市ニ出張シ十洲鹽業者ノ總代ヲ招集セラルヽニ至リ進ンテ當地方ヨリ出席セシハ村澤銀藏、三原又太郎、平野馬太、吉成恒吉ノ諸人ナリキ諸人ハ縷々當地方ノ事情ヲ陳述セリ然ルニ其會合ノ結果ハ遂ニ主務省ニ於テ三項ノ令達ヲ實行セサルニ至リシカトモ猶其餘波ヲ受ケ當地鹽業者ノ統一ヲ缺キシモ之レカ整理ノ責ニ當ルモノナシ然ルニ明治二十四年三月ニ至リ平野伊之太、村澤銀藏ノ兩人率先シテ漸ク本齋田改良鹽炭會社ノ組織ヲ創メ更ニ同二十七年五月商法實施ニ際シ本縣組合準則ニ據リ本齋田鹽業組合事務所ト改稱シテ今日ニ至レリト云フ現時此組合ニ屬スルハ撫養町大字齋田、黒崎、大小桑島、辨財天、北濱、南濱、立岩及瀨戸村大字明神、小島田及鳴門村大字三ッ石ノ十一部落ニシテ獨リ鳴門村大字高島村ハ別ニ明治十八年五月高島製鹽會社ヲ設ケ同二十六年十二月高島鹽炭合資會社ト改稱シ美保平曹、篠原彌次兵衞外四名ノ諸人率先社務ヲ整理シテ今日ニ至レリ

三　燃料其他需用品購買組合ノ組織、規定及沿革　　鹹水煎熬ニ要スル燃料ハ鹽田創業以來松葉ノミヲ用ヒ主ニ北灘地方ヨリ供給ヲ仰ケリ文化十年ニ至リ始メテ石炭三分松葉七分ヲ試用セシカ同十二年ニ至リ全ク松葉ヲ廢シテ石炭ヲ使用スルコトヽナレリト云フモ伊豫ヨリ傳習ヲ受ケ來リ之レヲ自村ニ使用シテヨリ次第ニ他村ニ傳ヘシト云フ

現今當鹽田地方ニ用フル石炭　上等燃料　筑後三池石炭ノ粉　中等燃料　筑前平戸ノ石炭、下等燃料　長州元山炭

本齋田鹽業組合規約

德島縣指令乙板第八〇〇號

割印

板野郡撫養町大字小桑島村

鹽業組合創立委員　平野伊之太

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

二十七年三月七日願鹽業組合規約ノ件認可ス

明治二十七年四月十九日　　德島縣知事　村　上　義　雄印

鹽業組合事務所設置之義ニ付御願

明治十七年十二月本縣告示第六十號告示ニ準據シ同業者申合ノ上別冊之通議定候ニ付組合御認可被成下度此段上願候也

明治二十七年三月七日　　德島縣板野郡撫養町大字小桑島村百番屋敷

鹽業組合創立委員　平　野　伊　之　太

德島縣知事　村　上　義　雄　殿

本齋田鹽業組合規約

第一章　組合名稱及組織

第一條　當組合ハ本齋田鹽業組合ト稱ス

第二條　當組合ハ德島縣板野郡撫養町一圓及鳴門村ノ內大字三ッ石村、瀨戸村ノ內大字明神村、同小島田村ノ鹽業者ヲ以テ組織ス

第三條　當組合事務所ヲ德島縣板野郡撫養町大字黑崎村四百二十六番屋敷ニ設置シ支所ヲ同郡同町大字辨財天村百三十五番屋敷ニ設置ス

第二章　目的及方法

第四條　當組合ハ同業者ノ弊習ヲ矯正シ產出食鹽ノ品位ヲ改良シ益々販路擴張ヲ量リ同業者ノ福利ヲ增進スルモノトス

第五條　當組合ハ同業者ノ需用ニ要スル石炭ノ品質及價格ヲ鑑定シ專ラ同業者需用ニ公平均一ニ普及セシムルモノトス

第六條　當組合ノ期限ハ明治二十七年四月ヨリ向フ三十七年三月三十一日迄ノ滿十ケ年トス

第七條　當組合ハ組合ノ名稱ヲ以テ營利ノ事業ヲ營マサルモノトス

第三章　役員及權限

第八條　當組合ノ役員左ノ如シ

一、組合長　一名　　一、副組合長　一名　　一、取　締　九名　　一、出納係　一名

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一、書　記　三名　一、檢查人　二名　一、桝取人　五名　一、小　使　四名

第九條　正副組長及出納係ハ組合會議ニ於テ撰擧ス其任期ハ各一ケ年トス　但シ前任者ヲ再撰スルモ妨ナシ

第十條　取締ハ村々鹽業者中ヨリ各村毎ニ一名ヲ撰擧ス其任期ハ前條ニ同シ　但シ前任者ヲ再撰スルモ妨ナシ

第十一條　書記以下ハ組長之レヲ進退ス

第十二條　組長ハ組合ノ事務ヲ處理ス

第十三條　副組長ハ組長ヲ補翼シ組長事故アル時ハ代理スルモノトス

第十四條　取締ハ組長ト協議ノ上當組合ノ事務ヲ分擔ス

第十五條　出納係ハ總テ組合ノ積立金及經費等ヲ司リ組長ノ命ヲ得テ出納スルモノトス

第十六條　書記以下ハ正副組長ノ指揮ニ從ヒ庶務ヲ整理ス

第四章　會議ニ關スル規程

第十七條　當組合ノ會議ハ通常會、臨時會ノ二種トス　通常會ハ毎年二月、九月ノ二度之レヲ開ク　臨時會ハ必要ア ル場合及官廳ヨリ諮問アリタル時又ハ議員三分一以上ノ請求ニ依リ之レヲ開ク

第十八條　會議ハ當組合規約ニ據リ撰擧シタル議員ヲ以テ組織ス

第十九條　議員ハ當組合鹽田十町歩ニ付一名ヲ撰出スル者トス端數アル濱所ハ十町歩ニ滿タサルモ尚一名ヲ撰出スルコト ヲ得其割合ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、立岩村　六人　一、北濱村（辨財天村）　二人　一、南濱村　四人　一、齋田村　二人　一、大桑島村　四人
一、小桑島村　二人　一、黒崎村　三人　一、明神村（小島田村）　三人　一、三ツ石村　三人

第二十條　議員ハ前條記載ノ各村ニ於テ之レヲ撰擧シ其地區内擔任ノ取締ヨリ組長ヘ届出ツルモノトス

第二十一條　被撰擧權ヲ有スルハ組合村ニ於テ二ケ年以上鹽業ニ從事シタル滿二十年以上ノ男子ニ限ル

第二十二條　議員ニハ組長ヨリ當撰證書ヲ授與スルモノトス

第二十三條　凡ソ會議ハ組長ヨリ開會二日前議事ノ目的、日時、場所等ヲ示シテ招集スヘシ

第二十四條　總テ會議ハ議員總數ノ過半數出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第二十五條　議事ハ出席議員過半數ノ同意ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長之レヲ決ス

第二十六條　議長ハ組長之レヲ勤ム組長事故アル時ハ副組長之レヲ勤ム

第二十七條　書記ハ議長之レヲ選ミ議事錄及庶務ヲ整理セシム

第二十八條　議事細則ハ會議ニ於テ豫メ議定シ置クモノトス

第二十九條　會議ノ當日缺席シタル者ハ其議事ニ付後日異議ヲ唱フルコトヲ得ス

又會員ノ議定シタル事件ニ付組合員ニ於テ異組ヲ唱フルコトヲ得ス

第五章　加入者及退去者ニ關スル規程

第三十條　當組合地區內ノ鹽業者ハ必ス組合ニ加入シ此規約遵守セシムルモノトス

第三十一條　當組合員タル地主又ハ小作人鹽田ヲ讓渡シタルニ依リ或ハ小作ヲ止メタルニ據リ鹽業ヲ廢シタル時ハ讓受人又ハ新小作人ニ於テ其地位ヲ襲續セシムルモノトス　但鹽業襲續スル者ハ其村取締ノ連署ヲ以テ其都度當事務所ニ屆出ツルモノトス

第三十二條　組合員若シ鹽業ヲ廢シ退會スル時ハ當時現在ノ積立金ヲ組合人員ニ割リ其持分ヲ拂渡スモノトス　但積立金拂渡シノ節ハ利子ヲ附セス

第六章　費用徵收及賦課法

第三十三條　當組合ノ費用ハ組合員各戶買入石炭一千貫ニ付金十二錢二厘五毛ヲ賦課徵收シ其金員ヲ以テ支辨ス若シ前項ノ收入ヲ以テ不足スル時ハ組合鹽田ノ地價ト反別トニ折半シテ賦課徵收スルモノトス

第三十四條　每年三月末ニ於テ組合事務所ノ總費用ヲ決算シ報告書ヲ作リ會議ニ提出シ認定ヲ促スヘシ

第三十五條　收入金ヲ以テ總費金ヲ支辨シ殘餘ノ金額ハ總テ積立置クモノトス

第三十六條　當組合事務所ノ經費ハ通常會ニ於テ豫算ヲ議定シ組長之レヲ施行ス

第七章　違約者處分

第三十七條　當組合規約又ハ決議ニ違背シタル時ハ正副組長及取締ノ協議ヲ以テ金一圓以上金五十圓以下ノ違約金ヲ差出サシムヘシ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第三十八條　役員ニ於テ規約又ハ決議ニ違背シタル時ハ其書記以下ニ在テハ組長之レヲ處分シ取締以上ニ在ッテハ會議ノ決議ヲ以テ處分シ尚金錢上ニ關スル時ハ之レヲ辨償セシム

第八章　雜則

第三十九條　當組合ニ於テ左ノ印章ヲ製定スヘシ

本齋田鹽業組合事務所印

本齋田鹽業組合事務支所印

本齋田鹽業組合長之印

本齋田鹽業組合副長之印

第四十條　規約變反セント欲スル時ハ出席議員過半數ノ決議ニ依リ更正スルモノトス

第四十一條　當組合ハ會議ノ決議ヲ初メ其他費用決算表ヲ製シ縣廳ニ報告スルモノトス

右之條々確守踐行スル爲メ署名捺印スル者也

明治二十七年三月七日

德島縣板野郡撫養町大字立岩村	同	大字大桑島村
鹽業者記名連署	同	鹽業者記名連署
同　大字辨財天村	同	大字南濱村
鹽業者記名連署	同	鹽業者記名連署
同　大字北濱村	同	大字齋田村
鹽業者記名連署	同	鹽業者記名連署
同　大字桑島村	同	大字黑崎村
鹽業者記名連署	同	鹽業者記名連署
	瀨戸村大字明神村	
	鹽業者記名連署	
	大字小島田村	
	鹽業者記名連署	
	鳴門村大字三ッ石村	
	鹽業者記名連署	

本齋田鹽業組合事務所細則

第一章　本支事務所管轄區域

第一條　本所ニ於テ管轄スル各村左ノ如シ

黑崎村　三ッ石村　明神村　小島田村

第二條　支所ニ於テ管轄スル各村左ノ如シ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

立岩村　辨財天村　北濱村　南濱村　齋田村　小桑島村　大桑島村

第二章　食鹽改良容量細則

第三條　總テ組合員產出スル食鹽ハ必ス事務所ノ改メヲ經ルモノトス

第四條　竈立黑鹽及粗製食鹽ハ總テ改メヲ爲サヽルモノトス

第五條　食鹽一俵ハ二斗五升九合ヲ以テ仕立桝トシ二斗五升五合ヲ以テ通桝トス　但シ買手ノ望ミニヨリ桝目增減スルコトアルヘシ

第六條　食鹽容量ハ一俵ニ付四合ノ見落シヲ許シ二斗五升五合ヲ以テ通桝トスルカ故ニ每俵二斗五升五合以上ナレハ總テ仕立桝トス　二斗五升五合以下ナル時ハ必ス二斗五升九合ニ足シ桝スルモノトス

第七條　當組合員製鹽積出シ桝改メノ際ハ關係ノ取扱人必ス立會ヲ要ス

第八條　製鹽ヲ煮ル竈ヲ立テ又ハ竈ヲ消スヤハ必ス三日以內ニ事務所ヘ屆出ス可シ

第九條　鹽改メ俵ハ順番ヲ以テ闔取トス最モ廻シ俵ノ割合ハ二百五十俵ノ上荷船一艘ト定メ內一俵ヲ廻シ俵トス故ニ二百五十俵以下タリトモ船每ニ一俵ヲ廻ハスモノトス

第十條　當組合事務所ニ於テ完全ナル鹽改メヲナシ以テ積切ヲ屆出スルトキハ左ノ證明證ヲ船每ニ渡スモノトス

證明書

一本齋田改良食鹽何萬何千俵

右何縣何郡何村何丸某船へ積入候義確實也

年月日　德島縣板野郡撫養町

本齋田鹽業組合事務所印

各位

第十一條　前條證明書ナキ食鹽ハ總テ本齋田鹽業組合ノ食鹽ニ非ラサル由ヲ各新聞紙ニ廣告スルモノトス

第三章　石炭鑑定細則

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第十二條　石炭入津ノ際ハ關係問屋ヨリ組長ヘ届出其指揮ヲ受ケ取締ヘ通知ス可シ

第十三條　取締ハ組長ノ報知ヲ得事務所ヘ出頭シ石炭印鑑等ヲ調査スルモノトス

第十四條　石炭荷取ハ黒崎本所ト辨財天支所ニ於テ毎月交番ニ荷取スルモノトス

第十五條　取締ハ石炭見本トシテ豫メ上荷船二艘以上ヲ荷取シ焚調ノ上品質及價格ヲ鑑定ス

第十六條　入津船ノ多數ニヨリ試驗充分致シ難キトキハ元船ヘ乘込ミ取調フルモ妨ケナシ

第十七條　石炭品質及價格鑑定ハ取締二名已上ノ立會ヲ要シ必ス焚調ノ翌日ヲ以テ鑑定ス　但品質不揃等ニシテ不得止トキハ此限リニアラス

第十八條　石炭品質容易ニ鑑定シ得ヘキトキハ前條ノ例ニ依ラス直チニ其日ニ荷取スルモ妨ケナシ

第十九條　石炭價格鑑定ノ上ハ荷取檢査トシテ取締二名已上ノ立會ヲ要シ瀨取荷船一艘毎ニ調査濟ノ證ヲ附與スル者トス

第二十條　前條調査濟ノ證ヲ受ケタル上荷船ハ其證書ヲ事務所ヘ差出シ更ニ事務所ノ割印ヲ捺シタル切符ヲ申受クルモノトス

第二十一條　價格確定ノ上ハ其由ヲ事務所ヘ揭示スヘシ

第二十二條　荷取ニ際シ風雨等アルトキハ速カニ之ヲ中止ス可シ

第二十三條　大風暴風ノ翌日ニシテ上荷船充分乾カサルトキハ荷取ヲナスコトヲ得ス

第二十四條　前條ノ役員ニシテ價格鑑定決シ難ク又ハ相場高下ノ甚シキトキハ取締一同ノ協議ヲ要スルコトアル可シ

第四章　石炭掛金取立方法

第二十五條　問屋ニ於テハ組合員ヨリ預リ置ク所ノ石炭掛錢ヲ翌月五日迄ニ事務所ヘ納ムルモノトス

第二十六條　前條掛金ヲ問屋ヨリ該期日迄ニ納金セサルトキハ荷取ヲ差止ムル者トス

第五章　役員事務規程

第二十七條　組長ハ事務所全體ノ事務ヲ總理シ其職制ヲ分ツコト左ノ如シ

第一　定款アル金員ヲ出納スル事　第二　石炭掛錢ヲ鑑定スルコト　第三　鹽業上ノ利害ニ付意見ヲ起草シ臨時會ヲ開クコト　第四　諸役員ノ能否ヲ監督シ書記已下ノ傭人ヲ進退スルコト　第五　會議ニ附シ施行スル件々

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第二十八條　副組長ハ其職務組長ニ亞キ組長事故アルトキハ代理スルコトヲ得ルト雖モ平常ハ支所ノ事務ヲ總理スル責ニ任ス

第二十九條　取締ノ職務左ノ如シ

第一　取締ハ正副組長ト共ニ事務所ノ事務ヲ分擔スト雖モ平素ハ其村内ノ事務ヲ總理シ且ツ石炭鑑定ノ事務ヲ兼ヌ

第二　取締中互撰ヲ以テ正副取締長ヲ置キ正副組長事故アルトキハ代理スルモノトス

第三十條　出納係ノ職務左ノ如シ

第一　出納係ハ石炭掛錢ヲ組長ヨリ受取リ預リ置クモノトス　第二　定額ノ金錢ヲ出納スルコト

第三十一條　書記ノ職務左ノ如シ

第一　製鹽ノ桝目及品位ヲ調査シ帳簿ニ記スルコト　第二　組長ノ指揮ニ從ヒ石炭掛金ヲ問屋ヨリ取立ツルモノトス

第三　石炭荷取ノ帳簿ニ記載スル事

第三十二條　鹽俵闔取衆檢查人心得左ノ如シ

第一　書記ノ指揮ヲ受ケ積鹽ヲ闔取スル事　第二　鹽業上ノ景況ヲ巡視スルコト　第三　石炭掛錢ヲ問屋ヘ督促スル事　第四　其他組長及書記ノ命ニ從ヒ臨時服務スルコト

第三十三條　桝取人心得左ノ如シ

第一　桝取ハ積鹽ノ桝目ヲ取調ヘ闔取事故アルトキハ代理ス可シ

第三十四條　本支所桝取ハ毎月組長ノ見込ミニ依リ交代スルコトモアル可シ

第三十五條　其他組長ニ於テ處要アルトキハ内規ヲ制シ之ヲ整理スルコトヲ得

第五章　役員俸給

第三十六條　役員ノ俸給左ニ

組長	一ヶ年報酬 金五十圓	副組長	同 金三十圓	出納係	同 金二十圓
取締長	同 金二十圓	副取締長	同 金十五圓	取締	同 金五圓
書記	月俸 金五圓五十錢	檢查人	同 金四圓三十錢	桝取	同 金四圓三十錢

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

掛取 見習兼小使	同	金二	圓	小使同	金一圓八十錢

第七章

第三十七條　旅費ハ旅行中一切ノ費ニ充ツル爲メ別表ノ定ムル處ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ瀛車、汽船賃、車馬賃及日當ヲ支給ス　但車馬賃及日當ハ縣内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第一　正副組長出納係取締ハ一等旅費ヲ支給ス　第二　書記已下ハ二等旅費ヲ支給ス

第三十八條　瀛車賃ハ瀛車旅行、瀛船賃ハ瀛船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第三十九條　旅行ノ性質ニヨリ特ニ船、車馬等ノ實費拂ヲナストキハ本規定ノ車馬賃ヲ支給セス

第四十條　縣下旅行ノ爲メ縣内ヲ通過スルトキハ其路程ハ縣外ニ準ス可シ

第四十一條　日當ハ陸路六里未滿瀛車瀛船十里未滿ノ旅行ニ支給セサルモノトス　但事務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シ日當ヲ支給ス

第四十二條　車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ總數ヲ合算シ之ヲ支給ス可シ　但一里未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第四十三條　旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ノ計算ヲス可シ

第四十四條　非常急行等ノ如キ場合ニ於テハ隨時實費拂トス

第四十五條　正副組長、取締、出納係等ハ組合地用紙ヲ豫メ組長ヨリ取締ヘ渡ス可シ

第九章　雜則

第五十條　當組合ニ關係ノ鹽石炭瀨取上荷船ハ必ス本齋(本)(齋)ノ燒印ヲ押用シ置クモノトス　但シ本齋ノ燒印ハ二ケ年毎ニ調査ノ上改印スルモノトス

第五十一條　前條ノ上荷船ニシテ不正ノ行爲アルトキハ直チニ本齋ノ烙印ヲ削除シ鹽炭瀨取ヲ差止ムルモノトス

右ノ條々確守踐行スル爲メ各自捺印スル者也

明治二十七年五月三日

區内ヲ旅行スルトキハ旅費日當トモ支給セス

第四十六條　書記已下組合地區内ヲ旅行スルトキハ旅費日當ハ共ニ支給セスト雖モ渡船賃ノ如キハ實費ヲ支給スルモノト

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ス

第四十七條　議員、總代委員等ノ名義ヲ以テ旅行スルトキハ事務所役員ノ旅費支給法ニ準スルモノトス　但臨時重大ノ事件ニシテ各府縣等ヘ旅行スルハ本條ニ準セスシテ別ニ手當ヲ支給ス

旅費等差表

等級	瀛車賃	瀛船賃	縣外車馬賃一里毎	縣內車馬賃一里毎	縣外日當一里毎	縣內日當
一等			六錢	五錢	七十錢	四十錢
二等			五錢	四錢	四十錢	廿五錢

第一　瀛車、瀛船賃正副組長、取締、出納係等ハ中等室、書記已下ハ下等室トシ其實費ヲ支拂フモノトス

第二　議員總代委員等ハ組長已下ノ實費拂ニ支準スルモノトス

第八章　會議細則

第四十八條　正副議長及議員ハ俸給ナシト雖モ當日賄料ノ實費ヲ支給ス

第四十九條　投票ハ組長ニ於テ組合ノ印章ヲ押シタル　本齋田鹽業組合會議員　記名連署

高島鹽炭合資會社契約書

第一章　總則

第一條　當社ハ高島鹽炭合資會社ト稱ス

第二條　當社ハ德島縣板野郡鳴門村大字高島村製鹽業者ヲ以テ組織スルモノトス

第三條　當社ハ德島縣板野郡鳴門村大字高島村七十八番屋敷ニ設置ス

第四條　當社ハ德島縣板野郡鳴門村大字高島村産出食鹽ノ品質ヲ改良シ升目ヲ一途ニシテ産出食鹽ヲ一手ニ賣捌キ且ツ製造業者ニ必要ナル石炭ヲ一手ニ購買シ之ヲ需要者ニ販賣スルヲ以テ目的トス

第五條　當社ノ營業期限ハ明治二十六年十二月一日ヨリ滿十ケ年間トス

但シ滿期ニ至リ更ラニ期限ヲ定メテ繼續スルコトアルヘシ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第六條　當社ハ左ノ印章ヲ以テ社印トス

高島鹽
炭合資
會社印

業務擔
當社員
何之某印

第七條　社名及ヒ社印ハ官廳ニ差出スヘキ文書報告書並ニ當社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ書類ニ之レヲ用ヰ重要ノ書類ニハ業務擔當社員記名捺印スヘシ

第二章　資本金及社員

第八條　當社資本金ハ一萬圓ニシテ左ノ社員各自頭書ノ金額ヲ出資トス

金五百七拾圓	谷崎元平	金四百八拾九圓	野口源右衞門	金四百六拾八圓	中川文平
金四百拾四圓	濱中德太郎	金參百六拾圓	中島孫平	金貳百參拾壹圓	緒方磯吉
金參百參拾參圓	豐田秀一郎	金參百五拾四圓	美保辨吉	金貳百四拾參圓	武內茂治平
金貳百〇四圓	田中伊藏	金六百四拾九圓	篠原彌治兵衞	金貳百八拾五圓	美保平曹
金百貳拾參圓	津田庄吉	金貳百五拾八圓	小泉立藏	金貳百四給九圓	福永澤吉
金貳百八拾五圓	福田忠三郎	金貳百五拾貳圓	伊藤倉次	金貳百拾圓	仁志六右衞門
金貳百拾六圓	半井庫次	金貳百四拾六圓	村居貞吉	金百九拾五圓	高畑春平
金百七拾四圓	大石重吉	金百五拾參圓	榮甚吉	金三百六圓	中川書三郎
金六拾六圓	篠原曾平	金貳百五拾八圓	秋月增太郎	金百五拾參圓	大石重兵衞
金貳百九拾四圓	青山觀次郎	金百八十圓	長濱庫藏	金四百貳十六圓	宮崎萬五郎
金貳百二十五圓	網野豐太郎	金百八十六圓	中島宏次郎	金貳百貳十五圓	村居芳吉
金八十六圓	武內米藏				

第九條　當社ハ其ノ出資ニ對スル領收證書ヲ作リ各社員ニ附與スルモノトス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第　號

高島鹽炭合資會社
出資領收證書

一金何圓也

右ハ當社資本金トシテ正ニ領收候也

明治三十二年　月日

高島鹽炭合資會社
業務擔當社員
何之何某印

何之某

第十條　當社員ハ其ノ持分ヲ德島縣板野郡鳴門村大字高島村製鹽業者外ヘ賣讓渡スルコトヲ得ス

第十一條　社員死亡スル時ハ相續人又ハ繼承人ハ其ノ地位ヲ襲續スルコトヲ得　但シ相續人及繼承人ハ德島縣板野郡鳴門村大字高島製鹽業者ニ限ルモノトス

第十二條　前條ノ場合ニ於テハ相續人又ハ繼承人ハ親戚及ヒ德島縣板野郡鳴門村大字高島村製鹽業者各二名以上ノ連署シタル書面ヲ以テ出資金領收證書ノ書換ヲ請求スヘシ

第十三條　社員出資金領收證書ヲ損壞又ハ汚染シタル時其ノ事由ヲ明記シタル書面ヲ以テ損壞又ハ汚染證書ヲ添付シ書換ヲ請求スヘシ若シ燒失又ハ紛失シタル時ハ證人二名以上ノ連署ヲ以テ其ノ事由ヲ明記シ再度ノ附與ヲ請フヘシ

第十四條　前條第二項ノ場合ニ於テ當社ハ之ヲ三日以上新聞紙ニ公告シ尚發見セサレハ三十日後新領收證書ヲ交附ス

但シ新聞紙公告費用ハ所有主ノ負擔トス

第三章　役　員

第十五條　當社ハ社員中ヨリ特ニ業務擔當社員ヲ選任ス其ノ人員左ノ如シ

一專任業務擔當社員　一名　一業務擔當社員　五名

第十六條　役員ノ任期ハ滿一ケ年トス　但シ滿期ニ至リ再撰スルコトヲ得

第十七條　業務擔當社員中缺員ヲ生シタル時ハ直チニ補缺員ヲ撰任スヘシ

第十八條　業務擔當社員ノ撰任及ヒ解任ハ總社員四分ノ三以上ノ多數決ニ依ル

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第十九條　業務擔當社員ノ權限左ノ如シ

一、當社營業上一切ノ事ヲ總理スルコト

一、代務人使用人其他傭人ヲ任免シ其給料賞與金等ヲ定ムルコト

一、當社ノ權利ハ業務擔當社員ノ名義ヲ以テ裁判上ト裁判外トヲ問ハス之レヲ主張シ又ハ有效ニ處分スルコト

第二十條　當社ノ業務ハ總テ業務擔當社員ノ多數決ニ依リ專任業務擔當社員之レヲ取扱フモノトス　但シ總會ノ決議ニ違背スルヲ得ス

第二十一條　業務擔當社員ハ計算書、財產目錄、貸借對照表、事業報告書、當期積立金額、代務人使用人等ノ給料並ニ賞與金ノ表ヲ作リ之ヲ通常總會ニ報告シ認定ヲ求ムヘシ

第二十二條　業務擔當社員ハ其職務上當社ニ加ヘタル損害ニシテ故意ニ出テサルモノハ之レニ對シ自己ニ其責ヲ負ハス

第二十三條　業務擔當社員ノ報酬ハ總會ニ於テ之レヲ定ム

第二十四條　社員營業時間中何時ニテモ當社業務ノ實況ヲ視察シ帳簿書類及金庫ヲ展開シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四章　總　會

第二十五條　通常總會ハ每年一月ニ之レヲ開キ臨時總會ハ業務ノ擔當社員四分ノ一以上ノ申立アル場合ニ於テ之レヲ開クモノトス

第二十六條　總會ヲ召集スルニハ少クモ開會七日前ニ各社員ニ會議ノ目的日時場所ヲ通知スヘシ

第二十七條　社員ハ業務擔當社員悉皆缺員トナリタルトキ若クハ臨時總會ノ開會ヲ申立ツル場合ニ當リ業務擔當社員ニ於テ其申立當日ヨリ十四日以內ニ理由ナク開會ノ手續ヲナサヽル時ハ總社員ヲ招集シ開會スルコトヲ得

第二十八條　總會ノ議事ハ通常總會ニ在リテハ出席社員ノ多數決ニ依リ臨時總會ニ在リテハ總社員ノ過半數ヲ以テ之レヲ決ス

第二十九條　臨時總會ニ於テ定數ノ社員出席セサル時ハ假決議ヲナシ更ニ總會ヲ召集スヘシ此場合ニ於テハ出席社員尙ホ定數ニ滿タサルモ出席社員ノ多數ヲ以テ第一總會ノ決議ヲ認可シタル時ハ之レヲ有效トス

第三十條　社員中事故アリテ總會ニ出席スル能ハサル時ハ委任狀ヲ以テ社員中ヘ代理セシムルコトヲ得

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第三十一條　總會ノ議長ハ業務擔當社員之レニ當ルモノトス　但シ社員ノ申立ニヨリ招集シタル總會ニ於テハ社員過半數ノ請求ヲ以テ社員中ヨリ互撰スコルトヲ得

第三十二條　總會ニ於テ決議シタル事項ハ其要領ヲ決議錄ニ記載シ總會ノ議長業務擔當社員記名捺印シ之ヲ保存スヘシ

第五章　帳簿及決算

第三十三條　當社ノ事業年度ハ一ケ年即チ毎年一月ヨリ十二月迄トシ一月ノ通常總會ニ於テ前期ノ決算ヲ決議ス

第三十四條　當社毎年度內ニ得タル總收入金ノ內ヨリ諸經費賞與金等ヲ引キ去リ殘金ハ總テ積立金トス

第三十五條　當社ハ常ニ資產負債ノ現狀及收支ノ計算並ニ出資額ヲ明記シタル帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

第六章　解散

第三十六條　當社ハ當社存立時期ノ滿了ニヨリ解散スル場合ニ於テハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ之レヲ繼續スルコトヲ得ス

第三十七條　當社解散スルトキハ直チニ營業ヲ停止シ總社員中ヨリ精算人二名以上ヲ撰定シ一切ノ事務ヲ處辨セシム

右契約ヲ確守踐行スルコト相違無之爲メ各自署名捺印スルモノナリ

以上　氏名省略

高島鹽炭合資會社細則

第一款　會社執務時間及休日

第一條　當會社ハ毎日午前六時ヨリ午後六時迄社務ヲ取リ行フ者トス　但シ至急ヲ要スル場合ハ此限ニ非ス

第二條　當社ノ休業日ハ左ノ通リ

毎月一日、十一日、二十一日、大祭祝日　但シ至急ヲ要スル場合ハ此限ニ非ス

第二款　食鹽容量及檢查

第三條　當社々員製造食鹽ノ容量ハ一俵ニ付二斗五升五合ト定メ消竈後二十日ヲ經過セシモノハ二斗五升ト定ム

第四條　賣買ノ食鹽ハ必ス會社ノ檢查ヲ受ケ會社ノ印鑑ヲ得ヘシ　但シ十船一艘ニ付鹽二十俵以內賣買食鹽ニハ本條ヲ適用セス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第五條　檢査ハ業務擔當社員又ハ代務人買人立會ノ上抽籤ヲ以テ瀨取船一艘ニ付一俵出サシメ品位及容量ヲ檢査シ容量第三條規程ニ不足アル時ハ前者ハ二斗五升五合後者ハ二斗五升ニ補充セシメ品位粗惡ナル時ハ精良ナル品ト引換セシム但シ檢査鹽ニシテ欠升アル時ハ定規ノ通リ補充セシメ尚二斗四升五合以下ナルモノニハ一俵ニ付五合ノ過怠鹽ヲ會社ヘ徵收シ二斗四升以下ナルトキハ欠升同量ノ過怠鹽ヲ會社ヘ徵收ス消竈後二十日ヲ經過セシ製鹽ニハ該但書ヲ適用セス

第三款　製鹽製造ノ區域

第六條　當會社ノ販賣スル製鹽ハ德島縣板野郡鳴門村大字高島產出ノ品ニ限ル

第七條　本村採鹹ヲ他村ヘ運搬シ又ハ他村採鹹ヲ本村ヘ運搬スルコトヲ得ス　但シ止ムヲ得サル事情アルトキハ會社ヘ屆出業務擔當社員三名以上ノ指揮ヲ受クヘシ

第八條　各社員立竈ノ時ハ各三日以內ニ會社ヘ告知シ及ヒ日々ノ製鹽ノ高及賣捌ノ高モ同時ニ告知スヘシ告知ハ詳記シタル竈屋帳ヲ以テシ會社ノ認定ヲ受クヘシ

第五款　商標烙記

第九條　當社員製造ノ商品ニハ當社登錄專用ノ商標ヲ烙記セシム

第十條　商標ノ印判ハ社員立竈ノ告知ト共ニ會社ヨリ之レヲ受領シ消竈告知ノ節之レヲ會社ヘ返付ス

第十一條　本則第十三條及第十七條ニ違反スル物品アルコトヲ發見セルトキハ商標ヲ烙記セシメス會社ヨリ直チニ印判ヲ返納セシム

第十二條　當社登錄專用ノ商標印鑑ハ左ノ如シ

（タカ）
◎本
（シマ）

第十三條　各社員專用ノ小印ニ變更ヲ要スル場合ハ其都度必ス會社ヘ告知シ會社ノ登記ヲ受クヘシ

第十四條　當會社販賣ノ商品ハ精良ヲ旨トシ決シテ左ノ混合物アル者ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

一、灰雜リ　一、敷石雜リ　一、手斧削　一、緣切廻シ　一、釣卷落シ

第十五條　俵裝ヲ善良ニ爲シ菰ハ好良ナルヲ撰擇シ構造堅固ニナシ運搬ノ便ヲ圖ルヘシ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第十六條　當社員製造ノ食鹽ハ必ス當社ヨリ一手販賣スルモノニシテ決シテ社員ヨリ直接ニ販賣スルコトヲ得ス

第十七條　當社販賣ノ種類三種トス

（一）船手賣　（二）問屋賣　（三）指名小賣

第十八條　第一種ノ手數料ハ買人ヨリ一俵ニ付二厘ノ手數料ヲ出サシメ第二種、第三種賣一俵ニ付五毛宛ヲ出サシム

第十九條　製鹽時價ハ日々會社ニ掲示シ標準相場トナス

第二十條　第一種ヨリ第三種ニ至ル買人アルトキハ社員ニ告知シ其賣高ヲシテ毎立竈人ヘ平等ニ之ヲ分當シ及消竈タリト雖モ立鹽ヲ有スルモノハ同等ニ分當ヲナスモノトス　但シ特ニ買人ヨリ指名シテ注文アルトキハ此ノ限ニアラヌ

第二十一條　販賣ノ手續ハ別ニ設クルモノトス

第八款　石炭ノ賣買

第二十二條　當社々員必要ノ石炭ハ何種ニ拘ラス凡テ當社ニ於テ一手ノ購買ヲナシ之レヲ各社員ニ販賣シ決シテ社員ノ直賣スルコトヲ得ス

第二十三條　當社購買石炭ニシテ社員分配ニ餘贏アルトキハ他人ヘ販賣スルコトヲ得

第二十四條　當社ノ石炭ヲ購買スルハ左ノ三種トス

（一）當港ヘ入津セシ船舶ノ搭載セル石炭又ハ各府縣ヘ送荷セント欲シテ航行中ノ船舶ノ搭載セル石炭ヲ購買スルモノ

（二）石炭採堀地ヘ社員ヲ派出シ直接ニ坑主ヨリ購買スルモノ

（三）船主ト特約ヲ締結シテ定期ノ航海ヲナサシメ之レヲ購買スルモノ

第二十五條　前條第一項ノ場合ハ業務擔當社員ニ於テ品質ヲ檢査シ價格ヲ定メ第二項ノ場合ハ派出員ヲシテ實地ニ就キ購買セシメ船舶ヲ傭ヒ之レヲ搭載シテ當港ニ運送セシメ第三項ノ場合ハ石炭ノ種類ト價格ヲ定メ船主ト條約ヲ締結シ續々送荷セシム

第二十六條　石炭ノ瀨取ハ千貫目ヲ以テ上荷一艘ト定メ檢見人社員立會ノ上品質貫目檢査シ會社ノ揚付證ヲ交付シ以テ各社員ニ配送セシム

第二十七條　會社ト社員トノ石炭取引ハ通帳ヲ以テ計算ヲ明ニシ代金ハ上荷々着ヨリ遲クモ三日以內ニ精算ヲ遂クヘキモ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ノトス

第九款　諸係錢及手數料

第二十八條　當社取扱石炭ノ諸係錢及手數料ハ左ノ通リ之レヲ定ム

第一　六錢　但シ千貫ニ付濱振シ

第二　三十二錢　但シ千貫ニ付樣見賃及瀨取賃

第三　十五錢　一回分　通常商船仲仕賃

　　十七錢　一回分　西洋形商船仲仕賃

第四　賣上金高ノ五歩　手數料

以上第四項ハ船手仕切ノ內ヨリ徵收スルモノトス

第五　六錢二厘五毛　一厘掛但シ千貫目ニ付

本項ハ社員及他人ノ分配ヲ受ケシモノヨリ徵收ス

第二十九條　第二十二條ヨリ第二十八條迄ノ各本條ニ規定セサルモノハ總テ舊來ノ石炭取扱慣行法ニ從フ

第十款　資本金

第三十條　資本金ハ銀行又ハ信用アル社員ニ預ケ置キ入用ノ際流通スヘシト雖モ商業上不足アルトキハ業務擔當社員ノ名義ヲ以テ他借スルコトヲ得

第十一款　代務人、傭人、服務章程及支拂期日

條三十一條　當社ニ代務人二名桝取二名小使(臨時傭)一名ヲ置ク

第三十二條　代務人ハ業務擔當社員ノ指揮ニ依リ製鹽檢查帳簿ノ記入ノ際社事會議ニ關スル記錄ヲ精密ニナス

第三十三條　桝取人ハ容量ノ升目ヲ檢シ其他社用ニ關スル使丁ノ雜務ニ從事ス

第三十四條　代務人及桝取人其他ノ給料及諸拂ハ每月三十日トス

第十二款　業務擔當社員報酬

第三十五條　業務擔當社員ハ名譽職ニシテ當分報酬ヲ與ヘス　但シ社用ニ付事務ヲ處スルニ當リ必要ナル實費ハ之レヲ辨償ス

第十三款　會議細則

第三十七條　會議ハ午前十時ニ始メ午後四時ニ終ルト雖モ時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第三十八條　議員着席順序ハ抽籤ヲ以テ定メ毎會其席ニ着クヘシ

第三十九條　議事ハ普通ノ三次會ヲ經テ決ス其順序ハ左ノ如シ

一次會　議長議案ヲ各員ニ配布シ書記ニ朗讀セシメ疑フヘキハ原案者ヘ質問セシメ質議了レハ總體ノ採決ス

二次會　議長議案ヲ逐條書記ニ朗讀セシメ議員ハ其條ニ當リ意見ヲ陳述シ討論憲議ノ末議長起立ヲ命シ可否ヲ決シ或ハ委員ヲ撰テ修正セシム

三次會　議長書記ヲシテ二次會決議ノ議案ヲ朗讀セシメ全案ノ可否ヲ確定ス

第四十條　議場ニ於テ議長ヲ呼ヒ發言シ議事外ニ渉リテ人身上褒貶毀譽スルコトヲ得ス

第四十一條　二人已上發言ヲ求ムルトキハ議長ノ指呼ニ從ヒ發言シ各自對論辨駁ヲ許サス猥リニ着席ヲ離ルヽコトヲ得ス

第四十二條　議長ハ議場ヲ整理シ議員ニシテ不遜ノ擧動アルトキハ議長ノ所斷ニ任ス

第四十三條　本社員中製鹽ニ効勞アル者又ハ役員傭人ニ於テ勤務勉勵ノ効績アルトキハ總會ニ問ヒ賞金ヲ與フ

第四十四條　社員ニ於テ本則ニ違反セシ時ハ總會ニ左ノ方法ニ依リ處分ス

初メテ本則ニ違反シタル者五圓ヨリ十圓迄ノ違約金ヲ出サシム再ヒ本則ニ違反シタル者十圓以上二十圓未滿ノ違約金ヲ出サシム三タヒ本則ニ違反シタル者ハ除名ス

右之契約確守踐行スルコト爲相違無之各自署名捺印スル者也

明治三十二年

德島縣板野郡鳴門村大字高島村

谷崎元平	仝武内茂治平	仝田中伊藏	仝牟井庫次	仝村居貞吉	仝高畑春平
仝野口源右衛門	仝武内茂治平	仝田中伊藏	仝牟井庫次	仝村居貞吉	仝高畑春平
仝中川文平	仝篠原彌治兵衛	仝伊藤倉次	仝秋月增太郎	仝長濱庫藏	仝官崎萬五郎
仝濱中德太郎	仝美保平曹	仝仁志六右衛門	仝中川資策	仝大石重兵衛	仝網野豐太郎
仝中島孫平	仝津田庄吉	仝大石重吉	仝中島宏次郎	仝村居芳吉	仝武内米藏
仝緒方磯吉	仝小泉立藏	仝榮甚吉	仝中川孫三郎	仝篠原會平	
仝豐田秀一郎	仝福永澤吉	仝福田忠三郎	仝美保善太夫		
仝美保辨吉					

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第十一章　試驗

一　採鹹煎熬其他鹽業ノ改良ニ關スル試驗ノ事蹟及方法

（一）板堤石釜　石釜ノ釜緣ハ從來灰土ヲ以テ構成シタリシモ頃日熱心ナル當業者ハ灰堤ニ換フルニ板堤ヲ試用セシカ好成蹟ヲ得タレハ茲ニ其概略ヲ叙述セン

釜緣板ハ建築用ノぬきニシテ厚サ凡八分巾四寸長サ二間ニシテ釜ノ大小ニ從ヒ圖ノ如ク組ミ合シ釜底ノ周圍ニ嵌入セル鐵條ノ上ニ石灰泥一寸許ヲ塗付此上ニ安置スル而シテ鍬九個乃至十二個ヲ用ヒテ之ヲ緊着ス若シ鹹水漏出スル場合ハ石灰泥ヲ以テ修理スヘシ又焚火口ノ上部板堤ハ往々噴出焰ノ爲ニ犯サルヽヲ以テ外部ニ土泥ヲ塗ルコトアリ

使用上ノ効果トシテ從來ノモノハ立釜後五六回ハ粗惡鹽ニシテ食料ニ供スルコト難キノミナラス時々灰堤ハ崩壞シテ食鹽ニ混シ品質ヲ害シ尚ホ日ヲ經レハ食鹽附着シ煎熬面積ヲ減シ屑鹽ヲ生ス之ニ反シテ板堤ハ着鹽更ニ無クシテ立釜三回ヨリ純良ナル食鹽ヲ採收シ得ヘシ又築造費ニ於テモ左ノ如ク廉價ナリ

貫板四挺	六十八錢	鍬十挺	大工手間	二十錢	石灰小俵
八錢	鍬十挺	五十錢	合計	一圓四十六錢	
貫板四挺	六十八錢	鍬十挺五十錢（普通品）	石灰	六錢	灰土（灰三分土七分）
五錢	大工手間	三十錢			
合計	一圓五十九錢				

猶右附着物ヲ改良シ木緣ヲ削リシモノ

右費用ヲ要スルモ貫板ハ二回鍬ハ二ケ年間使用シ大工手間ハ初回ニ要スルノミナレハ次回ノ費用ヲ殺減スヘシ只注意スヘキハ消釜ノ際直チニ板ヲ除去スヘク次回ニハ上下轉倒シテ使用スルニアリ尚ホ板ハ杉ノ白身ヲ好トス赤身ナルトキハ製鹽ニ着色スヘシ

釜立鹽分析成蹟（初釜十種平均）

		舊來灰堤	木堤	
色澤		黑	灰色	
結晶		細	中	
水分		九、五一	一二、四〇	
不溶解物		八、二五	一、七九	

（二）鹹水及苦汁ノ濾過　鹹水ヲ濾過セシムル時ハ色澤ヲ善クシ汚物ヲ除キ品質ヲ上進セシム分析ノ結果左ノ如シ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

差	鹽分析成績				鑑定成績	摘要
	水分	夾雜物	鹽化曹達			
濾過セサルモノ	一二、四四	一四、三八	七三、一八		六九、〇八	十種平均
濾過セシモノ	一二、四四	一二、六四	七四、九二		七一、一一	仝但仝水分ニ改算

即チ鑑定成績二%ヲ增加シ夾雜物ニ於テ一、七四%ヲ減セリ苦汁ヲ濾過セシムル時ハ尙ホ一層色澤ヲ善良ナラシム

又硫酸曹達、硫酸石灰ノ結晶及ヒ汚物ヲ除キ分析成績ニ於テ左ノ効果ヲ示セリ

差	鹽分析成績				鑑定成績	摘要
	水分	夾雜物	鹽化曹達			
苦汁ヲ一度濾過シ注入セシモノ	一二、四四	一一、一一	七六、四五		七二、九八	十種平均
仝二度濾過セシモノ	一二、四四	一〇、〇七	七七、四八		七四、二三	仝

濾過器ハ形狀一定セス在來ノモノヲ利用スルモノ多シ底部ヨリ二寸許ニシテさんヲ打チ竹簀ヲ横へ棕梠皮ヲ敷キ河砂二寸撒砂用ノ砂三四寸ヲ入ル或ル者ハ竹簀ヨリ底部ニ至ル空間一尺餘ヲ有スルモノアリ是等ハ其空間ニ濾液ヲ貯藏スルモノナリ苦汁ヲ濾過スルニハ濾過器ノ上面ニ布ヲ敷キ其上ヨリ苦汁ヲ注加スル故ニ石灰其他ノ夾雜物ハ布ニ集マル然レトモ綿布ノ細孔ヲ塞クカ故ニ時々之レヲ洗滌シテ用フ之レヲ行フノ目的ハ敷砂ヲ時々取換フルノ不便少ナカラシンカ爲ナリ例へ綿布ヲ用フルモ細砂ノ間隙自然消失シ濾過スルニ困難トナル故一週間ニ一度入換ヲ要ス尙ホ外氣寒冷トナレハ苦汁中ノ硫酸苦土硫酸曹達等結晶シテ濾出セサル故温メ釜ニ於ケル鹹水ノ少量ヲ混和シテ濾過セシムル時ハ容易ニ行フヲ得ヘシ

(三)鹹水煎熬ノ際ニ於ケル硫酸石灰採取法　鉄力又ハ亞鉛製ニシテ長二尺幅一尺深サ五分乃至七分ノ者ヲ作リ(大サ便宜ナリ)其對角ニ針金ニテ把手ヲ付ケ其形大小アレトモ餘リ大ニ過クレハ取リ扱ヒ上ニ不便ニシテ小ニ過クレハ多クノ箱ヲ用フルノ手數ヲ要スル故先ツ前記ノ寸法ノモノヲ可トス價一個十錢乃至十五錢トス

採取法ハ使用上効多キハ鐵釜ニシテ先ツ鹹水ヲ釜ニ入ルレハ其四隅ニ前記ノ器五個乃至十個ヲ入レ置ケハ煎熬スルニ從ヒ漸々硫酸石灰ハ浮流シテ用器内ニ集ル而シテ鹽ノ結晶シ始メントスル時即チごみ引ノ前注意シテ之レヲ取リ出スナリ大抵一箱ニ付五合位採取シ得一釜ニ付二升五合乃至三升ヲ取ルコト容易ナリ然レトモ鹹水ノ濃度ニ依リ石灰ノ含有量ニ各々差

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

異アルモノナレハ稀薄ナル鹹水ヲ用フルトキ採集セラルヽ石灰ノ量多キハ常ニ視ル所ナリ今ヤ本局管内ニテ鐵釜ヲ使用スルモノハ殆ント採取ヲ行ハサルナク而シテ鹽ノ品質ハ未タ正確ナル順序ヲ追ヒテ定量分析ヲ行ヒタルコト無キヲ以テ明言シ難シト雖モ單ニ之レヲ肉眼ニテ見ル時ハ塊團ヲ少クシ色澤ヲ善良ナラシム

從來濃度ノ高キ鹹水及鹹水ノ性質ニヨリテハねばりヲ生シもちノ擧ラサル鹽ハ品質劣等ナリト云ヒ來リシモ前法ニヨリ石灰ヲ採取スルトキハ濃キ鹹水モねばりヲ生スルコトナシ元來鐵釜ハ結晶粗大ニシテ手ざわり荒ク外觀不良ナルモ前法ヲ用ヒ煎熬中屢々ゑぶりニテ攪拌スル時ハ結晶細少ニシテ手ざわり良ク殆ント眞鹽ノ如キ感アリ尚ホ採集シタル石灰ハ之レヲ桶ニ入レ上澄液ハ元ニ歸シ肥料用ニ販賣ス

(四)食鹽洗滌法　洗滌法ヲ行フニハ母氏比重二十四五度ノ鹹水ヲ以テ普通鹽若クハ黑鹽等ニ應用シテ品質ヲ高ムルヲ以テ目的トス故ニ釜立鹽等品質粗惡ニシテ等內ニ入ラサル場合ニ應用ス此ノ法ヲ行フニハ先ッ粗惡食鹽ヲ桶ニ入レ底部ニ流出口ヲ造リ二十四度ノ鹹水ヲ注加ス然ル時ハ鹹水ハ食鹽ノ少量及ヒ夾雜鹽類ヲ溶解シテ滴出ス故ニ食鹽ハ洗滌セラレテ品質良好トナル之レヲ居出シニ置キ水分ヲ去ラシム而シテ流出口ヨリ出テタル液ハ再ヒ煎熬ス不溶解物多キ場合ハ攪拌法ヲ行ヒ同一ノ桶ニ供試食鹽ヲ入レ流出口ヲ防キ鹹水ヲ注加シ棒ニテ充分攪拌シ放置スル時ハ夾雜鹽類ハ溶解シ不溶解物ハ多ク上層ニ沈澱ス而シテ流出口ヲ開キ溶液ヲ流出セシメ上部ノ汚物ヲ除クニアリ然ル時ハ普通釜立鹽又ハ鹽化曹達六〇%以下位ノ劣等鹽モ三四等ノ品位ヲ保ッ若シ二三等ニ應用スル時ハ九〇%以上ノ鹽ヲ得ルコト易シ實際本局管內ニ於テ一等鹽ヲ作ルニハ此方法ヲ施スモノ多シ而シテ得タル濾液ハ鹹水ト共ニ再ヒ煎熬ス洗滌法及攪拌法ヲ施ス時ハ食鹽ノ生產量ニ於テ多少ノ減少ヲ見ル可キモ之レヲ再ヒ溶解シテ煎熬スル場合ニ比シ經費ノ點ニ於テ多少ノ利益アリ

左ニ等外ヲ洗滌シタルモノニ付分析成蹟ヲ揭ク

分析成蹟

差鹽(鹹水苦汁共濾過セス丸差)百分中

水分	一一、〇五	夾雜物	二六、五六
鹽化曹達	六二、三九	鑑定成蹟	五五、九七

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

右食鹽ヲ鹹水二十四度ニテ洗滌攪拌シタルモノ（百分中）

水分	一〇、〇七	夾雜物	五、八〇
鹽化曹達	八四、一三	鑑定成蹟	八一、九六

右ノ結果ニヨリ生産量二割二分ヲ減セリ

（五）ジャンバアノ設置及火口ノ改造　「ジャンバア」ハ普通蒸氣瀘罐等ニ使用スル者ヲ應用シテ煙突ノ間又ハ温メ釜ノ後部煙道ニ於テ設置シ火力ヲ均一ナラシメ又鹽揚ノ際ハ火力ヲ要セスシテ猶煮詰スルノ恐レアリ殊ニ鐵釜ニ於テハ掻揚ノ際僅カノ時間ノ長短ノ爲メ品質ニ關係ヲ及ホスヲ以テ其際ニハ「ジャンバア」ヲ下シ火力ヲ抑壓セシム即チ目的ハ火力ヲ均一ナラシメ石炭ヲ節約セシメンカ爲メナリ平均一釜ニ付一斤半ノ石炭ヲ節約スルノ成蹟ヲ得タリ

右「ジャンバア」ヲ下ス時ハ火口ヨリ煙ヲ噴出スルノ場合アリ依テ火口ヲ西洋竈ノ如ク金屬ノ蓋ヲ設ケ空氣ヲシテさなうまヲ通シテ供給シ充分燃燒セシムルヲ要ス

灰出ハ板ヲ以テ蓋トナシ空氣ハ土管ヲシテ外圍ヨリ通セシメじやんばあヲ付シテ供給ヲ均一ニス

（六）鹽品質改良　鹹水煎熬中ごみ引（ごみハ泡又ハ石灰トモ云フ）後凡一勺ノ澱粉ヲ少量ノ水ニ溶解シテ一面ニ法加ス然ル時ハ結晶細小トナリ手觸良ク外見殆ント眞鹽ト異ナルコトナシ石釜ニ於テハ多少ねばりヲ生スルコトアリ又ごみ引前ニ散注スル時ハ更ニごみハ浮流セス然レモ鐵釜ニ於テハ石灰取ヲ以テ石灰ヲ採收セシモノハ其憂ナシ

（七）煎熬釜火力均一ニ就テ　本局管内ニ於ケル鐵釜ハ長サ凡ソ十三尺巾九尺五寸ノモノナルヲ以テ後部兩隅ハ火力充分ナラス爲メニ蒸發及ヒ結晶ノ不平均ヲ來タスヲ以テ熱シタル空氣ヲ輸送シテ酸素ヲ供給シ兩隅ニ停滯セル未燃瓦斯ヲ燃燒セシメ火力ヲ均一ニ爲シテ好結果ヲ得タリ尚温メ釜下ニ應用セシメ從來六十度以上昇騰セサリシ鹹水モ七十度以上ニ昇騰セシムルコトヲ得タリ

空氣輸送管トシテ徑五寸ノ土管ヲ圖面ノ如ク竈底ニ幷列シ全部ヲ粘土ニテ塗付ス

（八）温メ釜ノ增設　本局管内ニ於テハ一日四百貫乃至五百貫ノ石炭ヲ使用スルモ非常ニ火力ヲ空中ニ放散セシムルヲ以テ温メ釜ヲ增設セシム

從來ハ温メ釜トシテ砂糖鍋一個又ハ二個ヲ使用セシモ漸次角形温メ釜（長六尺巾四尺深サ一尺二寸價格二十五圓内外）ヲ使

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

用スルニ至レリ然レモ火尖ハ常ニ煙突ノ根元以上ニ達シ非常ノ火力ヲ無益ニ放散ス今火力ノ充分ナル試驗器ナキヲ以テ止ムヲ得ス不完全ナル試驗ヲナセリ其結果ニ依レハ火力ノ約四分ノ一ヲ放散スルヲ以テ現在ノ釜ニ次キ長サ六尺以上巾三尺深サ五寸ノ溫メ釜ヲ二十尺乃至三十尺ノ間ニ增設スル時ハ十四度ノ鹹水ヲ以テ一日四百八十斤乃至五百斤ノ製產力ヲ增加スヘシ

（注意）煙道中火力減少スルニ從ヒ煤煙ノ溫メ釜底ニ附着スルヲ以テ圖ノ如ク掃除口ヲ造リ煤煙ヲ一日一回以上除去スヘシ（改良釜屋標準裝置ニ附屬スル圖參照）

（九）苦汁滴下促進法　本局管內ニ於テハ多ク三日間煮出場ニ堆積シ直チニ包裝納付スルヲ以テ水分及ヒ苦汁等ヲ多量ニ含有スルカ故ニ左ノ方法ヲ實行セシム

一、方法　煮出場ニ堆積中朝夕一回若クハ二回手入ヲナス則チ突欅ヲ以テ上部ヨリ下部ニ達スル迄突キ柔クルモノトス

甲　煮出場ニ三日間堆積　乙　煮出場ニ三日間堆積中三回手入ス

（試驗第一）但シ試驗ハ釜屋ニ就キ各一日ノ煎熬分ヲ以テ可驗物トス

	結晶色	澤水分	鹽化曹達	夾雜物總鹽素	曹達以外ノモノニ化合セル鹽素
甲	中褐赤色	一六、七三	六四、九八	一八、二九	四六、〇七
乙	小微赤色	一五、五二	六八、一四	一六、三四	四七、二九
					三、四九
					三、九二

右ノ結果ニヨル手入ヲナシタルモノハ結晶小ニシテ色澤成分等ニ於テモ善良ナルヲ認ム

（第二試驗）前可驗物ヲ乾燥場ニ移シ七日間前仝樣ニ堆積セシ其成蹟左ニ

甲、煮出場ニ於テ手入セスシテ乾燥場ニ移シ堆積セルモノ

乙、煮出場ニ於テ三回手入ヲナシ乾燥場ニ移シ堆積セルモノ

丙、煮出場ニ於テ三回手入ヲナシ乾燥場ニ移シ更ニ二回手入セルモノ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

	色澤	結晶水分	鹽化曹達	夾雜物總鹽素	曹達以外ノモノニ化合セル鹽素
甲	稍赤色 小	一四、二七	七〇、三六	十五、三四	三、一二
乙	微赤色 稍小	一四、〇三	七〇、九一	一五、〇六	三、〇七
丙	白色 全	一三、八九	七一、七七	一四、三四	三、〇五

右ノ成蹟ニヨレハ凡テニ於テ漸次良好トナルモ大差ナク鹽化曹達量ニ於テ乙ハ甲ヨリ〇、五五丙ハ乙ヨリ〇、八六丙ハ又甲ヨリ一、四一ヲ增加スルモ漸次日數ヲ經過スルニ從ヒ差額ノ減少ヲ認ム

依テ按スルニ第一第二ノ結果ニヨリ乾燥小屋（小精小屋）ノ設備ナク煮出場ヨリ直チニ包裝納付セントスル時ハ促進法ヲ行ヒ以テ空氣ノ流通ヲ宜シクシ水分ノ飛散及苦汁ノ滴下ヲ促スヲ適當ト認ム

（十）釜屋小屋根ノ改良ニ就テ　撫養地方ニ於ケル小屋根ハ水蒸氣ノ飛散不充分ニシテ室內ニ充滿シ從テ煎熬ニ多クノ時間ヲ要スルヲ以テ種々考究ノ別圖ノ如ク案出セリ

小屋根ハ六尺四方ニシテ自動がらり裝置トナシ側面ハ高サ三尺表面高サ四尺がらり板ハ長サ二尺八寸五分幅七寸五段及ヒ七段トナシ風位ニ應シテ開閉スル即チ風上ノがらりヲ通シテ吹キ込ム風ヲシテ圖ノ如ク斜行セシメ風下ノがらりヲ通シテ去ラシムル時ハ飛遊スル水蒸氣ヲ迅速ニ放散セシム

（イ）ハ銅線ニシテ之ヲ引ク時ハがらりハ開キ　（ロ）ノ力ニヨリテ自由ニ閉鎖ス

（十一）蒸發力促進裝置　蒸發力促進裝置ハ圖ニ示ス如ク地上六尺ノ所ニ於テ本釜及第一ノ溫メ釜ノ上部ニ四角漏斗形板張ノ被蓋ニシテ小屋根ト連絡セシメ四隅ニ徑三寸角ノ柱ヲ以テ支ヘ梁ヨリ針金ヲ以テ所々ヲ釣リ動搖及ヒ墜落ヲ防クナリ又下部釜トノ中間ハ前後トモ板張トナシ兩側ハ帆木綿又ハとんごろすヲ垂レ其間隙ヨリ空氣ヲ流通セシメ水蒸氣ヲ迅速ニ放散セシメ蒸發力ヲ促進スルモノナリ

風取裝置ハ四角形漏斗形（一）ニシ（二）ノ木樋ヲ通シテ（三）ヨリ吹上シム（五）ハ丸形溝付ニシテ（四）ナル支柱ヲ挿入シ回轉ヲ自由ナラシム（六）ハ木樋ト木樋ノ接續點ニシテ（七）ニ差込ムモノナリ（八）ハはんどるニシテ風向ニヨリ回轉セシム（九）ハ亞鉛製雨除ナリ

此風取裝置ハ前者裝置ト相待チテ釜面ヨリ蒸發スル水蒸氣ヲ猶一層急速ニ屋外ニ放出セシムル爲メ設ケタルモノニシヲ即

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

チ自然上昇シ來リタルモノヲ風取リニコリ吹上ケシムルヲ以テ釜面ハ此風取ナキニ比シ壓力弱クシテ鹹水ノ沸騰スルコト早ク釜邊ハ木綿及板張ニテ圍ムニヨリ其間隙ヨリ侵入スル空氣ハ內外温度ノ差異ニヨリ盛ンニ上昇シ來リ風取リノ爲メニ吸上ケセラレ蒸發ノ速度ヲ促進セシムルコト即チ煎熬時間ヲ減スルコト大約五分ノ一ニ至ルヘシ

（十二）苦汁內ノ食鹽採取法　專賣實施以來品質改良ノ結果苦汁內ニ多量ノ食鹽ヲ含有スルヲ以テ之ヲ採取セントス

鹽取籠ニ於テ滴下セル苦汁ヲ左ノ時間ニヨリ採取セシ鹽化曹達ノ含有量左ノ如シ

採取間時	鹽化曹達量%	摘要	採取時間	鹽化曹達量%	摘要
十分	一六、〇九	初度ヨリ十分間滴下セシモノ	一時間半	一一、五五	
二十分	一三、五一	前項以後十分間ニ滴下セシモノ	二時間	一一、三九	
三十分	一二、二八	以下全シ	全量	一三、〇七	初ヨリ滴下セシ全量ナリ
一時間	一一、五九				

右ノ分析成蹟ニヨリ鹽取籠ニ滴下セシ苦汁ニ二十五度乃室三十度ノ温度ヲ與フルキハ底部ニ結晶ヲ生ス其結晶ヲ取リ分析セシ結果左ノ如シ

供試苦汁ニ含有セル鹽化曹達量（一三、〇七）

當日結晶セシ鹽化曹達量		累計	當日結晶セシ鹽化曹達量		累計
一日間ニ結晶セシモノ			七日 全上	〇、二九一	一、二三〇四
二日 全上	一、九四〇	一、九四〇	八日 全上	〇、二九五	一二、五九九
三日 全上	二、二一一	四、一五一	九日 全上	〇、二三〇	一二、八三五
四日 全上	二、六一七	六、七六八	十日 全上	〇、〇五四	一二、八八九
五日 全上	二、五四八	九、三一六	十一日 全上	微量	
六日 全上	一、七〇二	一一、〇一八	十二日 全上	痕跡	
	〇、九九五	一二、〇一三			

右ノ成蹟ニヨリ苦汁內ノ鹽化曹達ハ六日間二十五度乃至三十度ノ温度ヲ與フル時ハ全量ノ九割一九ヲ結晶セシムルヲ以テ温メ釜ト煙筒トノ中間煙道ノ兩側ニ壺ヲ埋メ餘熱ヲ與ヘテ結晶セシメ上澄液ヲ取リ結晶ハ洗滌法ヲ行ヒ又ハ再製ニ供スル

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

トキハ相當ノ利益アルヘシ尚ホ釜屋改良標準裝置ニ示セル如ク鹽取箱ヲ左右ニ設置シ一釜毎ニ之ヲ使用シ製鹽ヲシテ數回手入ヲナシ成可多ク苦汁ヲ滴下セシメハ煮出場ニ於テハ品質ノ上騰ヲ計ルヲ得同時ニ苦汁内ノ鹽ハヨリ多ク採取スルヲ得ヘシ苦汁ヲ二十度以下ニ冷却スルトキハ夾雜物ノ結晶ヲ起スモノナリ

（十三）鹹水ノ濃縮裝置　元來製鹽家ニ於テハ二個以上ノ鹹水溜（土藏）ヲ有スル屋根ニ改造シテ圖ノ如クてらしト稱シテ稀薄ナル鹹水ヲシテ濃縮セシムベシ

鹹水溜ノ中央ニヘぎヲ造リテ二分シ若クハ三分シ一ツニハ濃度ノ鹹水ヲ入レ又一ツニハ稀薄ナル鹹水ヲ入レ之ヲぽんぷニテ屋根ナルてらしニ汲ミ上ケ以テ濃縮セシムル裝置ナリ

現在ノ鹹水溜ノ屋根ヲ除キ地上一尺ノ處ヲ平面ニ板張トナシ周圍ハ煉瓦ヲ以テ深サ七八寸ノ壁トス板面ヲせめんと塗トナシ四方ヨリ（イ）點ニ傾斜ヲ付スヘシ降雨ノ際ハ（ロ）又ハ（ハ）ノ栓ヲ拔キテ（ト）又ハ（チ）ニ鹹水ヲ落シ後（ニ）ノ栓ヲ扳キテ兩壁外ニ流出セシムヘシ

（十四）改良釜屋標準裝置　改良釜屋標準裝置ハ當地方ニ於テ既ニ實行セル改良裝置ヲ綜合シ別圖ニ示シタルモノナリ

一、煎熬釜
二、温メ釜
三、鹹水濾過器
四、木製ぽんぷ
五、鹹水井
六、鹽取籠
七、差鹽トスヘキ苦汁溜
八、十一ニ速ルヘキ苦汁溜
九、苦汁濾過器（二重濾）
十、煮出場
十一、食鹽採集用苦汁壺
十二、じやんばあ
十三、空出口ノ蓋
十三、空氣輸送土管
十五、石炭裝置場
十六、煙道
十七、じやんばあ
十八、被蓋
十九、空氣吹出口
二十、空氣連送土管
二十一、煤煙掃除口

第十二章　輸出入及ヒ試賣

一　支那、朝鮮、浦潮等方面ヘノ輸出又ハ試賣シタルコトナシ

第十三章　鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

一　鹽田以外ノ鹹水採收及製鹽裝置及方法

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

鹽田以外ニ於ア鹹水ヲ採收スルコトナケレハ從テ製鹽裝置及ヒ方法等ノ如キ調査スルニ由ナシ

第十四章　燒鹽

一　燒鹽製造方法　燒鹽ヲ製造スル者ナシ

第十五章　再製鹽

一　再製鹽製造方法　再製鹽ハ數年前製造シタルモノアレトモ專賣法實施後行フモノナシ

第十六章　鹽田ノ地價等

一　鹽田ノ地價、時價、小作料

種目	上田 平年 三十八年	中田 平年 三十八年	下田 平年 三十八年
一反歩 鹽田地價	七八、〇〇〇円	五三、八〇〇円	三五、五〇〇円
全 水田地價	三〇、〇〇〇	三四、五〇〇	二五、五〇〇
全 畑地價	四〇、〇〇〇	二五、八〇〇	二三、七〇〇
全 鹽田時價	四四七、九七一	三八四、六四二	二五三、〇三〇
全 水田時價	二四〇、〇〇〇	二六五、〇〇〇	二六五、〇〇〇
全 畑時價	二一〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
備考	二一〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇

小作料調査　一町歩當リ

年度	種別	賃貸價格 金額	種類	數量	時價 種類	單價
三十七年	田	一五八、四〇〇	米	八石四石	一石	一五、五八〇〇
	畑	一五三、七一〇	麥	五石九石	一石	八、五〇〇
	鹽田	二五七、六〇〇	鹽	八〇〇俵	一俵	一四、六五〇〇 八、九四〇 、三二
三十八年	田	一五七、六〇〇	米	八石四石	一石	一五、三〇〇 八、八〇〇
	畑	一四七、九〇〇	麥	五石八石	一石	一五、五〇〇 八、八〇〇
	鹽田	二九六、〇〇〇	鹽	八〇〇俵	一俵	一五〇、〇〇〇

備考　鹽田小作料ハ濱ノ等級ニヨリ大差アリ故ニ中等鹽田ト認メラルヽモノニシテ立岩村、南濱村及桑島村ヲ平均シタルモノナリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター